

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

—— 平成29年度

[平成30年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、平成22年4月から平成27年3月までの5年間にわたって様々なFD／SDの取組を行って参りました。その実績が高く評価された結果、平成26年7月には、引き続き「教職員能力開発拠点」として5年間の再認定（認定期間：平成27年4月～平成32年3月）を受けました。再認定から3年目となる今年度は、学内関係者及び学外の学識経験者で構成される共同利用運営委員会において中間評価を実施し、第2期の活動状況について概ね目標を達成し、事業が順調に進行していることが確認されました。特に、本拠点の重点事業であるFD／SD／IR推進の専門家・実践的指導者（F D e r／S D C／I R e r）の養成講座については、3年間の累計で約200名がプログラムを修了するなど、大きな成果をあげています。これまでの本拠点の活動に御支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

さて、平成29年4月の大学設置基準等の一部改正により、「SDの義務化」及び「教職協働」が法令等に規定され、教職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための取組や、教員・事務職員等が連携協力して業務に取り組むことがこれまで以上に重要となりました。本拠点では、独自資格である「SDコーディネーター（SDC）」の認定制度を平成23年3月に設け、SDに関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者（SDC）の養成を積極的に推進して参りました。今年度も、学外認定者を含む5名のSDCを輩出するなど、これまでの活動が着実に実を結び、多くの実践的指導者の養成を行うことができました。

また今年度は、芝浦工業大学（教育関係共同利用拠点（拠点名：理工学教育共同利用拠点））との合同で「ファカルティ・ディベロッパー養成講座&SDC養成講座」を東京で、大学評価コンソーシアムの後援を受けて「I R e r 養成講座」を愛媛で開催するなど、他の拠点やコンソーシアムとの連携による講座を実施し、参加者から好評を得ることができました。

ここに、教職員能力開発拠点の今年度の活動をまとめた年次報告書をお届けします。われわれとしましては、本拠点の活動内容や成果を広く皆さまに報告し、自らの活動を振り返る中で時宜にかなった新たな活動に結びつけていきたいと考えています。講座開催や研修講師派遣等の活動は、本拠点スタッフにとっても、新たな気付きが得られる貴重な機会であり、本拠点事業を通じて、教育の質向上へと繋がる人材育成の輪が多くの機関、そして多くの方々に広がっていくことを心より願っています。今後とも、教職員能力開発拠点の発展に御支援、御協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人愛媛大学長

大 橋 裕 一

平成29年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
(1)	組織概要	1
(2)	スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
(1)	教職員能力開発拠点の認定について	4
(2)	教職員能力開発拠点の実施体制について	5
(3)	教職員能力開発拠点の事業計画について	7
3	平成29年度の事業報告	
(1)	平成29年度事業の総括	9
(2)	平成29年度活動実績	
	①FD／SD／IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援	11
	②研修プログラムの開発・提供	21
	③講師派遣／オープン・オフィス	44
	④情報発信	54
	⑤その他教職員能力開発に関する事業	55
	⑥中間評価の実施（共同利用運営委員会）	59
参考資料		
①	第2期教職員能力開発拠点目標体系図	61
②	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規	62
③	愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項	64
④	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	67
⑤	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	68
⑥	共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	70

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（内規第4条及び第10条） ※P. 62～63参照

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究等に関すること。
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
3. 授業評価及びシラバスに関すること。
4. 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
5. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
6. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
7. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

教育企画室各部門について

教育・学習支援部門

主に教職員の能力開発を通して教育活動及び学習活動の支援を行っている。教員の能力開発としては、授業の改善、カリキュラムの改善、組織の整備・改革という3つのレベルにおいて、ワークショップ、セミナー、授業コンサルテーション、教育コーディネーター研修会などを実施している。職員の能力開発としては、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で専門分野別及び階層別のSDのプログラムやサービスを提供している。

教育調査・分析部門

主に教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行っている。新入生や卒業予定者等へのアンケートの調査結果を分析することで全学的な教育改善及び情報公開を行っており、調査結果の報告は「IRレポート」にまとめ、学内関係者に届けている。また、調査結果から想定される課題、他大学も含めたIRに関わる取組などを「教育企画室ニュースレター」に掲載して情報発信をしている。

学生能力開発部門

主に学生の能力開発を知性と人間性の両側面から支援する教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。その代表的な取組が、学生のリーダーシップを高める「愛媛大学リーダーズ・スクール」である。また、スタディ・スキル講座等のプログラム開発、学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）の運営、大学院生の能力開発を目的としたTA研修、附属高校のキャリア教育支援等を実施している。

歴史

- 1993年：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置される。
- 2001年：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年：大学教育総合センター（省令施設）となる。
センター内にできた教育システム開発部が、FDを担当する。
- 2004年：教育・学生支援機構の設置に伴い、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）に名称を変更する。
- 2006年：教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が、それぞれ共通教育センターと教育企画室に改組される。
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に、本学教育・学生支援機構から申請していた「FD/SD/TAD 三位一体型能力開発」（代表：教育・学生支援機構 教育企画室長 高瀬恵次教授）が採択される。
- 2008年：「戦略的大学連携支援事業」に、本学が代表校となり申請した「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』による大学の教育力向上」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤浩章准教授）が採択される。
- 2010年：「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として，文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の認定を受ける。
- 2012年：「大学間連携共同教育推進事業」に，本学が代表校となり申請した「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNG L）」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 秦敬治教授）が採択される。
- 2014年：2015年以降も引き続き，教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成27年4月1日～平成32年3月31日）として，文部科学大臣からの認定を受ける。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<教育企画室 スタッフ>

氏 名	職 名	専 門
小林 直人 - KOBAYASHI Naoto	学長特別補佐（教育）， 教育・学生支援機構副機構長， 教育企画室長，医学部教授	医学教育カリキュラム， 学生の自己学習への支援，FD 等
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	教育企画室副室長，教授	高等教育論，人材育成論 （SDC資格取得者）
清水 栄子 - SHIMIZU Eiko	講師	高等教育，学習支援 （SDC資格取得者）
村田 晋也 - MURATA Shinya	講師	組織論（FD），リーダーシップ論， 人的資源管理論
丸山 智子 - MARUYAMA Tomoko	特任助教	教育開発，リーダーシップ， プロジェクト・マネジメント （SDC資格取得者）
小林 忠資 - KOBAYASHI Tadashi	特任助教	比較教育，高等教育
加地 真弥 - KAJI Maya	特定研究員	教育学，英語教育，IR
平尾 智隆 - HIRAO Tomotaka	学生支援センター准教授	教育経済学
阿部 光伸 - ABE Mitsunobu	学生支援センター講師， 広報室副室長	SD，高等教育政策，産業教育論 （SDC資格取得者）
高橋 平徳 - TAKAHASHI Yoshinori	教職総合センター講師	生涯学習論，人的資源管理論
仲道 雅輝 - NAKAMICHI Masaki	総合情報メディアセンター講師， 教育デザイン室長	インストラクショナルデザイン， 教育工学，FD，e-learning （SDC資格取得者）

2. 教職員能力開発拠点について

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。平成26年7月31日には、本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価され、教育関係共同利用拠点としてさらに5年間認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD／SD／IRの専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

- ◎拠点名：教職員能力開発拠点
- ◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関
- ◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）
平成27年4月1日～平成32年3月31日（5年間）（再認定）
- ◎代表者名：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構副機構長 教育企画室長）

【参考】本拠点以外の「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」に係る拠点（平成29年度）

施設名	拠点名
北海道大学 高等教育研修センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
東北大学 高度教養教育・学生支援機構	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
山形大学 教育開発連携支援センター	地方中小規模大学の教育実践力の開発・向上を支援する連携・体験型拠点
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点
千葉大学 大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学 アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点
金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門	教育改善・大学の組織開発を支える研修人材育成拠点
岐阜大学 医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点
名古屋大学 高等教育研究センター	質保証を担う中核教職員能力開発拠点
山口大学 知的財産センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（知的財産教育）
九州大学 基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点
佐賀大学 全学教育機構クリエイティブ・ラーニングセンター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（ICT活用教育）
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター	理工学教育共同利用拠点
帝京大学 高等教育開発センター	FD推進共同利用拠点～グローバルなFD研修プログラムとポートフォリオを活用した成果評価手法の開発～

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

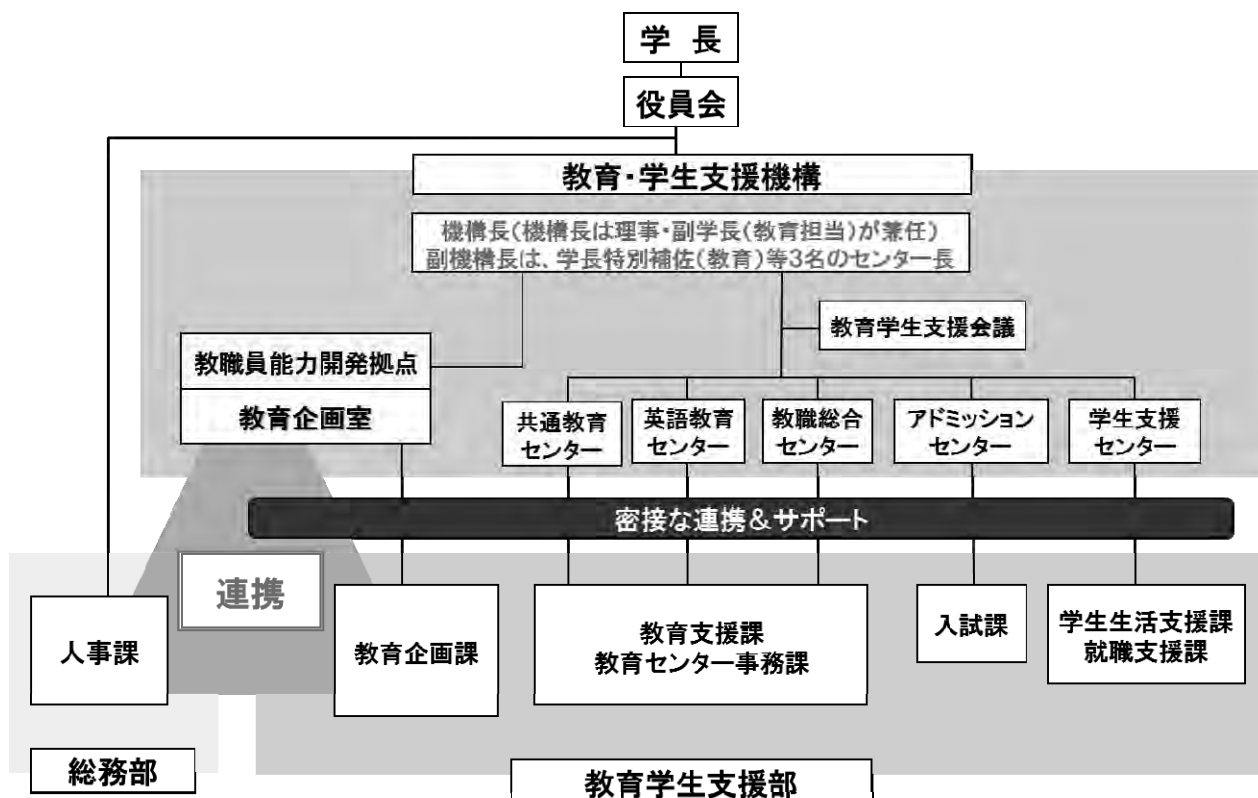
教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

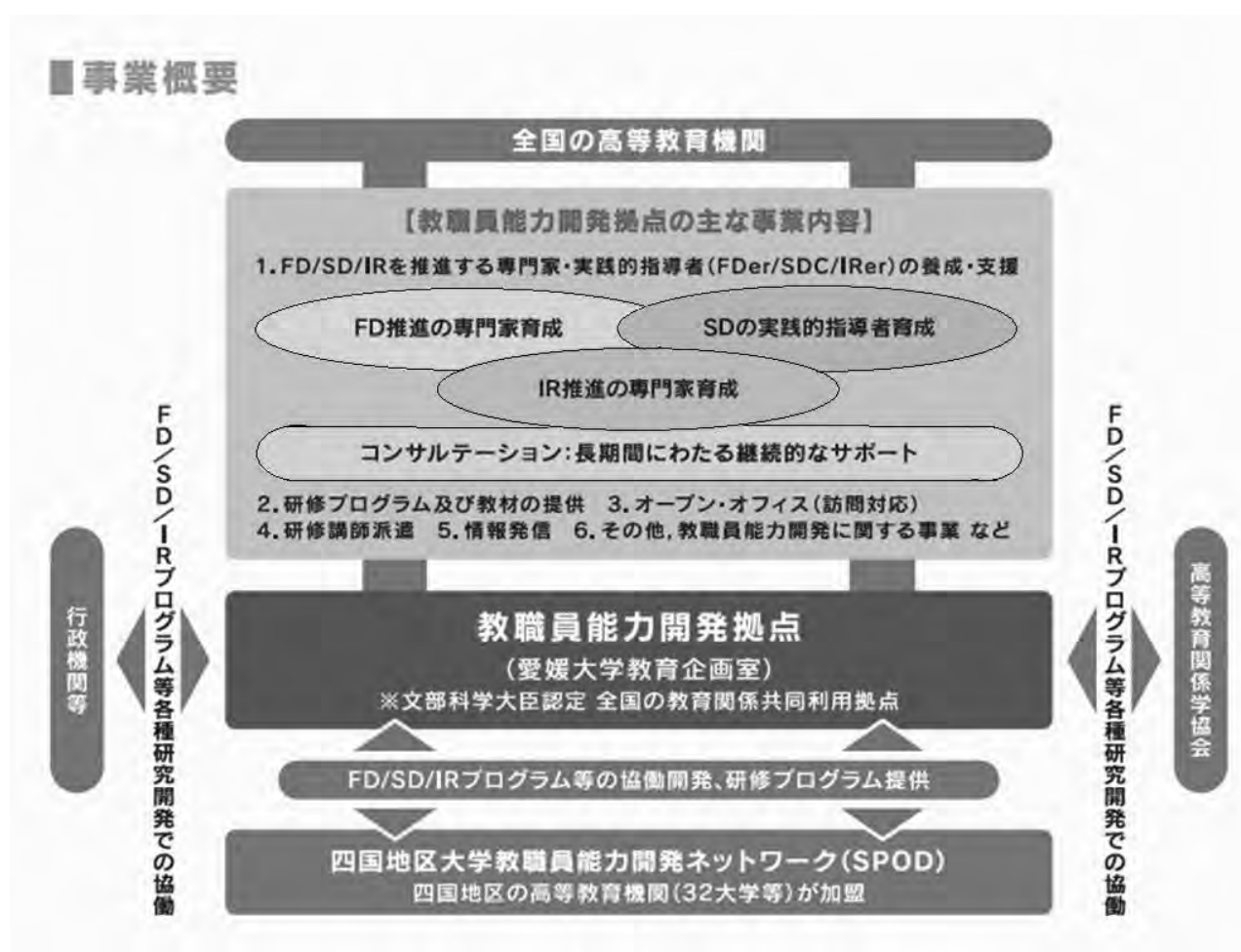


教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.67, P.70参照）。

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に同委員会において、再認定後の「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した（次頁参照）。また、本拠点事業の評価・改善を円滑に行うために、事業目的や評価指標を示した「第2期教職員能力開発拠点目標体系図」についても併せて作成した（P.61参照）。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.68, P.70参照）



教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAED）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。今後はさらに、他の教育関係共同利用拠点との連携も検討している。

(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

平成27年6月30日

共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業は、学生の学びの促進を担う教職員の能力開発を行うことにより、全国の高等教育機関における教育の質向上に寄与することを目的とする。これまでに開発したFD/SDプログラムを充実させ、全国の高等教育機関で活用できる研修および各種サービスを提供する。とりわけ、高い波及効果が期待できるFD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成を重点的な取り組みとし、各組織における自律的な教育改善を支援することを目指す。

2. 事業内容

(1) 教職員能力開発拠点は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

①FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRer）の養成・支援

②研修プログラム及び教材の提供

③オープン・オフィス（訪問対応）

④研修講師派遣

⑤情報発信

⑥その他、教職員能力開発に関する事業

※上記①～⑥までの事業を行うために必要な施設は、授業やその他の行事と併用しながら提供する。

(2) (1) の事業を実施するために、以下の活動を行う。

①広報（ホームページ、案内パンフレット、メールマガジン等）

②他機関との連携等によるプログラム及び教材等の開発

③研修講師及び訪問対応ができる人材の育成

3. 利用申込み方法

教育企画室ウェブサイト、案内パンフレット等でプログラム内容、定員、連絡先等を示し、参加者等の申込みを受け付ける。

4. 共同利用の決定等

(1) 研修講師派遣

教育企画室ウェブサイトに研修ニーズアンケートを掲載し、その結果及び以下の優先順位に基づき、教育企画室会議で研修講師派遣の可否及び研修講師を決定する。

【優先順位】

① 複数の高等教育機関の教職員が参加する研修である。

② 単一の高等教育機関においても全学的な取組である。

③ その他

(2) 訪問対応

教育企画室ウェブサイトに訪問ニーズアンケートを掲載し、その結果に基づき、教育企画室会議で訪問対応の可否を決定する。

(3) 研修プログラム提供

愛媛大学が提供するプログラムの中から、教育企画室会議で提供する研修プログラムを決定する。ただし、他の機関やコンソーシアムと共同で実施する研修プログラムについては、定員数、申込み方法、共同利用の決定方法やアンケート様式等について当該機関と協議を行う。

(4) 教材等提供

教育企画室ウェブサイトに掲載する教材等は、非営利目的においてのみ利用できるものとし、利用にあたっては、次の「利用条件」を付すものとする。

【利用条件】

- ① 教材等を改変しないこと。なお、技術的に再現困難な場合には、改変することを認めるが内容は改変しないこと。
- ② 必ず教材等の出所（教材作成者名、教材名、研修会（会議）名等）の表示を行うこと。
- ③ 教材等を引用の範囲を超える目的で利用する場合には、作成者の使用許諾を必ずとること。
※上記③の使用許諾が必要な方は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に所属、氏名、連絡先、使用許諾が必要な資料名、利用目的を記載し、申請すること（様式任意）。

5. 実績管理

共同利用運営委員会等に報告するため、1年間の各事業の実績を所定の様式に取りまとめる。また、各事業の評価を得るため、以下のことを行う。

- (1) 講師派遣 派遣先の機関が実施するアンケート結果の提供を依頼する。
- (2) 訪問対応 アンケート様式を作成し、訪問者に依頼する。
- (3) 研修プログラム提供 アンケート様式を作成し、プログラム受講者に依頼する。

上記に基づき、教職員能力開発拠点の事業等を実施するために必要な事項については、教育企画室会議で決定する。

平成29年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD/SD/I Rの専門性の高い指導者の育成、及び長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援など、以下の事業を行うほか、他の機関やコンソーシアムとの連携を強化する。さらに、これまでの実績を踏まえ、その成果について具体的な事例収集及び効果検証を行い、本事業の充実を図る。

◇事業内容

- ①FD/SD/I R推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRe r）の養成・支援

自大学において教育改善を推進できるFDe r（ファカルティ・ディベロッパー）、SDコーディネーター（能力開発担当教職員）、教学IRe r（教学分野に特化した機関調査の担当教職員）を養成するための研修を実施するほか、研修受講者に対する継続的な支援を実施する。平成29年度は「FDe r/SDC/IRe r養成講座」を開催予定である。

- ②研修プログラム及び教材の提供

設置形態や組織の規模、受験難易度等にとらわれない、全国の高等教育機関で活用できる基礎的なFD/SDプログラムを提供する。さらに、ガバナンス機能の強化にも対応できるよう、新たにI R関係プログラムを開発・提供する。さらに、研修のために開発された教材等、教職員の能力開発に関するオリジナル教材を教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関等の非営利目的において利用してもらう。

- ③オープン・オフィス（訪問対応）

愛媛大学の取組事例や各種プログラムの紹介や全国の高等教育機関のFD/SD/I Rに関するお悩み相談を年5回程度行う。年間スケジュールについては、あらかじめ教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関の教職員が参加しやすいようにする。

- ④研修講師派遣

多種多様なメニューや経験豊富なスタッフを揃え、引き続き、全国の高等教育機関のニーズにあう研修講師を派遣する。事前に「研修ニーズアンケート」を行うなどして、ニーズの把握に努める。研修講師先については、基本方針に定めた優先順位に基づき、決定する。

- ⑤情報発信

教育企画室ウェブサイトの充実を図り、広く教職員の能力開発に関わる情報を発信する。また、本拠点の取組内容や活動実績・成果等について、学会等で発表していく。

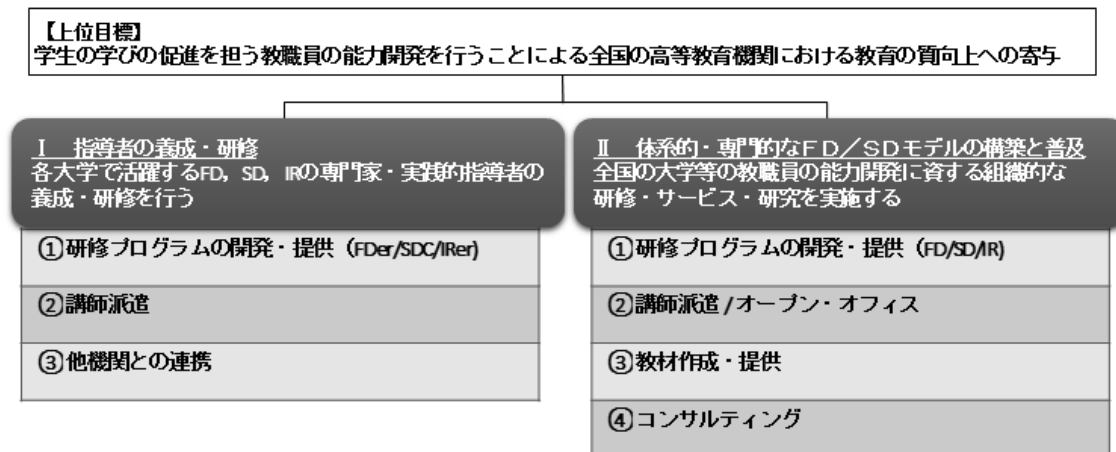
- ⑥その他教職員能力開発に関する事業

上記オープン・オフィスや研修講師派遣に、カリキュラムコンサルティングや能力開発コンサルティングといったコンサルテーションを組み合わせた継続的な支援を行う。さらに、他の機関やコンソーシアムとネットワークを形成し、連携した事業についても検討していく。

3. 平成29年度の事業報告

(1) 平成29年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針に基づき、各取組を体系立てて教育的資源の提供を行っている。以下、今年度の取組状況を総括していく。



1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者 (FDer, SDコーディネーター, IRer) の養成・研修 (上図 I- ①③に対応)

本事業の中でも特に重点を置く取組であり、今年度はFD, SD, IRの各分野について1講座ずつ開催した。10月13日～15日に東京で開催した「ファカルティ・ディベロッパー養成講座/SDコーディネーター (SDC) 養成講座」では、全国から52名の教職員が参加し、それぞれの役割に必要な知識や具体的手法を学んだ。また、大学評価コンソーシアムの後援のもと、11月17日～19日に本学で「IRer養成講座」を開催し、全国各地から教職員30名の参加があった。参加者は、IRの意義や方法の知識を学ぶと共に、データ分析から教育改善の提案まで、実際にワークを行って理解を深めた。

なお、ファカルティ・ディベロッパー養成講座/SDコーディネーター (SDC) 養成講座については、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター（理工学教育共同利用拠点）との共催であり、同センターは、本拠点と同様、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）の認定を受けている。共に大学教育の充実に資する組織として、互いの強みを生かして連携を図っている。

2. 研修プログラムの開発・提供 (上図 II- ①に対応)

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、新規プログラムを加え、全19プログラムを提供した。今年度は全国から延べ429名の参加があり、いずれの研修においても参加者から高い満足度を得た。

特に、12月9日～10日には、大学コンソーシアムえひめと連携し、「スタッフ・ポートフォリオ (SP) 作成ワークショップ」を実施した。自身のキャリアビジョンを見つめると共に、学びを自大学で共有しようと、四国を中心に、中国、近畿地方から5名の職員が参加した。ワークショップでは、愛媛大学の事例を交えながらSPの有効性について学び、講師によるメンタリングを受け、実際にSPを作成した。

3. 講師派遣 / オープン・オフィス

(上図 I-②, II-②に対応)

授業・教授法やカリキュラム、業務改善等、多様なプログラムを揃え、全国の高等教育機関からの依頼に応じて講師を派遣している。今年度は、42機関からの依頼を受け、59件の講師派遣を行った(平成30年2月末現在)。

また、本学の取組への問合せやFD/SD/IRに関する相談等、全国の高等教育機関等からの訪問調査に対応するため、オープン・オフィス(年5回)や個別訪問に随時対応しており、今年度は国公立大学を含む10機関から個別訪問があった。訪問目的に合わせて最適な教職員が対応にあたり、本学の取組事例を基に効果的な組織体制のための提案を行った(平成30年2月末現在)。

4. 情報発信

(上図 II-③に対応)

昨年度に引き続き、ポスター「データから考える愛大授業改善 Vol. 3」や教育企画室ニュースレター「IR News 第5号」を作成し、IRを中心に愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信している。

また、教育企画室が開発したオリジナルの教材や刊行物等の一部について、愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

その他にも、教育企画室のホームページでは各種イベント・セミナーの案内や教材等の紹介をはじめ、教職員能力開発に関する情報を発信している。

5. その他教職員能力開発に関する事業

(上図 II-④に対応)

コンサルティングを実施した他、2017年度国別研修「ミャンマー・イエジン農業大学能力向上プロジェクト」において、愛媛大学の教育改革のための組織や特徴、課題などを訪問団に対して本拠点代表が説明する等、国際連携にも対応した。

6. 第2期中間評価の実施(共同利用運営委員会)

教職員能力開発拠点の再認定を受けて3年目となる今年度、共同利用運営委員会において、体系的に設定された数値目標とこれまでの実績を比較した中間評価について報告を行った。審議の結果、第2期の活動状況について概ね目標を達成していることが確認された。

おわりに

第2期の中間年度にあたり、上述のとおり本拠点の活動について中間評価を行いました。第2期の活動状況を振り返り、概ね順調であることが確認されました。特に本拠点の重点的取組であります、FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成については、全ての指標で目標を達成することができました。改めて本拠点の活動に御支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

残る2年間も他大学や関係機関との連携を図りながら、高等教育の発展に努めて参りたいと考えております。全国の高等教育機関の皆様におかれましては、引き続き、本事業に御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教職員能力開発拠点 代表

小林 直人(愛媛大学学長特別補佐, 教育・学生支援機構教育企画室長)

(2) 平成29年度活動実績

1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRer）の養成・支援

各大学等において自律（立）的にFD, SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点の第2期では、第1期から取り組んでいるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成にさらに重点を置くこととしており、今年度も他大学やコンソーシアムと連携しながら、各分野について講座を開講した。これらの講座では、講義を通して知識や実践的なスキルを習得するだけでなく、参加者相互が共に学び合うことも期待され、それぞれの大学の取組事例を紹介したり、悩みを共有したりする等、積極的に取り組む姿が見られた。

a. FD推進の専門家の養成・支援

FDe r（ファカルティ・ディベロッパー：FD推進の専門家）とは

組織のFD責任者として各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家のことを指し、以下3点を担うFD推進の専門家

- (1) 個々の教員や授業科目における教育技術の改善（ミクロ・レベル）
- (2) 学部や学科・コース等におけるカリキュラムの改善（ミドル・レベル）
- (3) 個々の大学やコンソーシアムでFDを推進するための組織整備（マクロ・レベル）

■ 10月13日（金）～15日（日）開催 ファカルティ・ディベロッパー養成講座

本講座は、FDを企画・実施する立場にあるFDe rに求められる基礎的な知識・技能・態度を育成することを目的として、平成23年度以降、隔年で開催している。今回は、同じ教育関係共同利用拠点の1つである、芝浦工業大学教育イノベーション推進センターとの共催で、東京において開催した。全国から教職員34名（教員26名、職員8名）が参加し、FDの意義を学び、所属大学等におけるFD活動を振り返りながら理解を深めた。

また、講座後半のワークでは、研修で学んだことを生かして実際にFDの企画案を作成した。より実践的な内容となり、自大学のFD資源に気づくことができた、今後のFD活動につながる視点を持つ機会ともなったとして好評を得た。



【事後アンケート結果】

研修は全体的に満足できるものだった：100%（そう思う＋どちらかといえばそう思う）
知識やスキルを身につけることができた：100%（そう思う＋どちらかといえばそう思う）

【参加者からの声】

- ・FDについて理論や学問的知識がなかったため、大変参考になり、自大学で自信をもって説明ができそう。
- ・新たなFDの視点を身に付けるだけでなく、振り返ると意外と学内でFDらしいことはやられていて、それが組織化されていないだけなのだとということが分かった。
- ・FDの実践について、他学の事例を知ることができた。また、問題意識、悩みのあること、その共有に力づけられた。

※プログラム構成等については、案内チラシ（P. 15～）や詳細（P. 36）を参照。

b. SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では、職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター（SDC）」と称している。今年度は学外者3名を含む5名を新たにSDCとして資格認定した（詳細はP. 64参照）。SDC資格を取得した学外者3名はいずれも、後述する「SDC養成講座」及びそのフォローアップ研修を過去に受講した職員であり、SDの実践的指導者養成の取組が着実に成果を伸ばしている。

SDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SD実践的指導者）とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、以下4点を担うことのできるSD実践的指導者。

- （1）大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- （2）各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- （3）職員のキャリア開発
- （4）人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準

1. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
2. 高等教育機関における職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法を修得している。
3. スタッフ・ポートフォリオ※を作成する職員に対するメンター経験を有している。
4. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有している。

※スタッフ・ポートフォリオとは、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）が開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 10月13日（金）～15日（日）開催 SDコーディネーター養成講座

本講座は、職員の能力開発の実践的指導者に求められる能力や役割を理解し、実際にSD推進に活用できる具体的手法の習得を目的として、平成24年度以降、毎年開催している。今年

度は、ファカルティ・ディベロッパー養成講座と一部合同で東京にて開催し、関東地方を中心に18名の教職員（職員16名、教員2名）の参加があった。参加者は人材育成ビジョンやキャリア開発について知識や手法を学んだ後、SDプログラムの企画、運営、評価の基本を学び、実際にSDプログラムを開発するワークに臨んだ。最後に、ポスターセッション形式で開発したSDプログラムの発表を行い、3日間の成果を共有することができた。

<プログラム構成>

◆組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

自大学における人材育成ビジョンの構築を目指す。例えば、求める職員像や職員のキャリア開発、キャリア形成のために、組織としてどのようなビジョンが必要であるか等を学ぶ。

◆キャリア開発手法／個人のビジョン作成ワークショップ

参加者が自らのスタッフ・ポートフォリオを作成し、ワークショップを通じて職員としての理念・ビジョンを整理し、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学ぶ。

◆SDプログラム企画・運営・評価手法／SDプログラム開発ワークショップ

SDプログラムを企画・運営・評価するための手法を学ぶ。さらに、ワークショップを通じて開発したSDプログラムについて、ポスターセッション形式で共有を行う。

※受講者は事前課題としてスタッフ・ポートフォリオを作成



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった : 93.7% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)
②知識やスキルを身につけることができた : 93.7% (そう思う+どちらかと言えばそう思う)

【参加者からの声】

- ・人材育成についてより体系的に考えていく必要性を感じた。
- ・SD研修、プログラムの実施について一連の流れとその実行方法を知ることができた。
- ・ビジョンの作成と個人のビジョンづくりとを行った上でのSDプログラム開発という流れだったので、組織のベクトルと個人の思いを意識した研修づくりができ、大変参考になった。
- ・他大学とのネットワークが広がった。

※詳細については、（P. 37, 38）を参照。

c. IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（IRer）を養成するための講座を開講している。本講座は、平成26年度（開催地：福岡）、平成28年度（開催地：名古屋）と隔年で開催していたが、IRへの関心の高さから、昨年度に続き今年度も開催することとした。

IRer（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは

教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家。

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

■ 11月17日（金）～19日（日）開催 IRer養成講座

本講座は、データ収集から教育改善の提案までの場面で、IRerに求められる知識や技能の習得を目的としており、今年度は大学評価コンソーシアムの後援のもと、愛媛大学で開催した。関東、中部を中心に全国から30名の教職員（教員15名、職員15名）が参加し、IRerに必要とされる基本的な知識や量的・質的データの分析方法等の具体的なスキルを学び、さらに、分析結果をもとにした改善策の提案や発表までの一連のプロセスを踏んで理解を深めた。事後のアンケートでは、「IRの捉え方と具体的な分析手法を理解することができた」等、高い評価をいただくとともに、開催1ヶ月後に実施したアンケートでも回答者の約9割が学修したことの活用に向けて意欲的な声が多く寄せられた。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった：97.1%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた：97.1%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・IRの活動の一連のプロセスを理解できた。学びたいスキルが身についた。
- ・分析手法等即戦力となる内容であった。
- ・具体的な事例に沿って、実務に活きる実習があり良かった。
- ・多くの方々のIRに対する考えを伺えた。

※プログラム構成等については、案内チラシ（P.19～）や詳細（P.39）を参照。

教職員能力開発拠点事業

in 東京

ファカルティ・ディベロッパー養成講座 & SDコーディネーター(SDC)養成講座

2017. 10. 13 FRI → 15 SUN

会 場／芝浦工業大学 芝浦キャンパス
(東京都港区芝浦3-9-14)

参加費／無料

主 催／愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
(教職員能力開発拠点)
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター
(理工学教育共同利用拠点)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)は、全国の高等教育機関の発展のため、FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成に取り組んでいます。今回は芝浦工業大学との合同で、東京で開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております。

後 援／日本高等教育開発協会 ※ファカルティ・ディベロッパー養成講座のみ



ファカルティ・ディベロッパー養成講座

■参加対象者

高等教育機関で1年以上FDを
担当している教職員

先着
50名

- ※3日間の参加が可能な方のみとなります。
- ※全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
- ※所属機関でのFD活動事例を使ったワークがあるため、FD業務の経験のない方及び民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。
- ※多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。

SDコーディネーター養成講座

■参加対象者

SDを担当する教職員
SDコーディネーターに関心のある教職員

先着
30名

- ※3日間の参加が可能な方のみとなります。
- ※全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
- ※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。
- ※多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

講師

FDer養成講座  小林 直人 (教職員能力開発拠点代表) 愛媛大学 学長特別補佐 教育企画室長・教授	FDer養成講座  佐藤 浩章 (日本高等教育開発協会副会長) 大阪大学 全学教育推進機構 准教授	FDer養成講座  榊原 暢久 芝浦工業大学 教育イノベーション推進 センター／工学部 教授 (SDC)	FDer養成講座  ホートン広瀬恵美子 芝浦工業大学 教育イノベーション推進 センター／建築学部 教授	FDer養成講座  中井 俊樹 愛媛大学 教育企画室 副室長・教授 (SDC)	FDer養成講座  小林 忠資 愛媛大学 教育企画室 特任助教
SDC養成講座  清水 栄子 愛媛大学 教育企画室 講師 (SDC)	SDC養成講座  丸山 智子 愛媛大学 教育企画室 特任助教 (SDC)	SDC養成講座  吉田 一恵 愛媛大学 教育学生支援部 愛媛大学SD統括コ ーディネーター (SDC)	SDC養成講座  河野 太志 愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 副課長	SDC養成講座  鈴木 洋 芝浦工業大学 教育イノベーション推進 センター事務課 課長	SDC養成講座  鎌田 雅子 明星大学 学生サポート センター

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）に認定され（認定期間5年）、平成26年7月には、さらに5年間の再認定を受けました。教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門性の高い指導者の育成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

理工学教育共同利用拠点

(芝浦工業大学教育イノベーション推進センター)

芝浦工業大学教育イノベーション推進センターは、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点（大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関）の認定を受けました（認定期間：平成28年7月29日～平成31年3月31日）。私立大学では2校目の認定となります。これにより、本学が目指している理工学教育のモデル構築に向けて、より活発な取り組みとなることが期待されています。

■会場アクセス 芝浦工業大学 芝浦キャンパス

「田町駅」より徒歩3分、「三田駅」より徒歩5分



■お問い合わせ先

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL : 089-927-9154
E-mail : kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

■当日のお問い合わせ先

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター事務課
TEL : 048-687-5049

ファカルティ・ディベロッパー養成講座

■実施目的：FDを企画・実施する立場にあるファカルティ・ディベロッパーに求められる基礎的な知識・技能・態度を育成すること。

到達目標

- ① 所属する機関においてなぜFDが必要なのかを説得力をもって説明できる
- ② 所属する機関のFD活動を振り返り、特徴と課題を抽出することができる
- ③ FDのさまざまな場面で求められる課題解決の方法を提案することができる
- ④ FDに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学びあう雰囲気貢献する
- ⑤ 他機関のファカルティ・ディベロッパーと友好的なネットワークを構築する



スケジュール

【1日目】10月13日(金)

- 12:30 受付開始
13:00 オープニング [小林直人]
13:10 オリエンテーション [小林忠資]
※SDC養成講座と合同開催
13:30 FDを理解する [佐藤浩章]
14:15 FDを設計する [中井俊樹]
15:15 所属大学のFD活動の振り返り [榎原暢久]
16:00 研修を運営する [中井俊樹]
17:00 終了
18:00 情報交換会(参加任意/会費4,000円)
※SDC養成講座と合同開催

【3日目】10月15日(日)

- 9:30 FDの企画案を作成する [佐藤浩章]
12:00 休憩
13:00 FDの企画案の発表と共有 [佐藤浩章]
14:30 クロージング [小林直人]
※SDC養成講座と合同開催
15:00 終了

【2日目】10月14日(土)

- 9:30 授業コンサルティングを運営する [小林忠資]
10:00 学生参画型FDを運営する [ホートン広瀬恵美子]
10:30 ティーチングポートフォリオを取り入れる [榎原暢久]
11:00 カリキュラムを改革する [佐藤浩章]
12:00 休憩
13:00 イベント「Q&Aで学ぶFD」 [小林忠資]
14:00 組織開発につながるFDを実施する [小林直人]
15:00 休憩
15:15 ファカルティ・ディベロッパーとして成長する [榎原暢久]
16:00 FDの企画案を作成する [佐藤浩章]
17:30 終了

お申し込み

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。
お早めにお申し込みください。

下記のサイトからお申し込みください。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

■受付開始：平成29年7月20日(木) 正午

■申込締切：平成29年8月 8日(火) 正午

※受付完了後、確認メールを送信します。

※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。

※ホームページから申し込みができない場合は、下記までメールでご連絡ください。

■宛先/kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

■メール件名/FDer養成講座申込み(氏名〇〇〇〇)

先着
50名

事前課題

自大学で実施されているFDを紹介する資料を作成してください。

(資料には、①FDの概要、②FDの特徴、③FDの課題を含めてください。図表や写真などを入れることもできます。1枚目に大学名および氏名を記し、2枚以内でまとめてください。PDFもしくはワードファイルにして下記の提出先に添付で送付してください。)

■提出期限/平成29年9月15日(金)

■提出先/kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

3日目の研修で使用するので、ノートパソコンをご持参ください。

※会場の都合上、充電済みのものをご持参いただきますよう、ご協力をお願いします。

SDコーディネーター養成講座

■実施目的：職員の能力開発（SD）の実践的指導者（SDコーディネーター／SDC）になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています。

到達目標

- ① 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
- ② 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
- ③ 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ（SP）を作成することができる
- ④ 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
- ⑤ SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
- ⑥ SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる



スケジュール

【1日目】10月13日(金)

- 12:30 受付開始
 13:00 オープニング [小林直人]
 13:10 オリエンテーション [小林忠資]
※ファカルティ・ディベロップバー養成講座と合同開催
 13:30 SD、SDCについて理解する [清水栄子]
 14:00 人材育成ビジョンの必要性について理解する [吉田一恵]
 14:30 組織の人材育成ビジョンワークショップ [吉田一恵]
 17:00 終了
 18:00 情報交換会（参加任意／会費4,000円）
※ファカルティ・ディベロップバー養成講座と合同開催

【2日目】10月14日(土)

- 9:30 SP、メンタリングの導入事例及びその有効性について [河野太志]
 10:30 メンタリングを実践する [鎌田雅子]
 12:00 休憩
 13:00 個人のビジョン作成ワークショップ [鈴木 洋]
 14:30 休憩
 14:40 SDプログラムを企画・運営する [丸山智子]
 15:50 休憩
 16:00 SDプログラムを評価する [清水栄子]
 17:00 SDプログラムを開発する [丸山智子]
 17:30 終了

【3日目】10月15日(日)

- 9:30 SDプログラムを開発する [丸山智子]
 12:00 休憩
 13:00 SDプログラム発表と共有 [丸山智子]
 14:00 振り返り
 14:30 クロージング [小林直人]
※ファカルティ・ディベロップバー養成講座と合同開催
 15:00 終了

お申し込み 定員人数に到達次第、募集を締め切ります。
お早めにお申し込みください。

下記のサイトからお申し込みください。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

- 受付開始：平成29年7月20日（木）正午
- 申込締切：平成29年8月 8日（火）正午

※受付完了後、確認メールを送信します。

※いただいた情報は本講座以外に使用することはありません。

※ホームページから申し込みができない場合は、下記までメールでご連絡ください。

- 宛先／kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp
- メール件名／SDC養成講座申込み（氏名〇〇〇〇）

先着
30名

事前課題

- ①スタッフ・ポートフォリオ ※受付完了後、様式をお送りします。
- ②自大学で実施している『新任職員に対する研修』の実施要項（受講者間で共有可能なもの）をPDFデータ（A4用紙5枚まで）で提出してください。該当するものがない場合は、職員に対する何らかの研修の実施要項で結構です。
※資料の1枚目右上に、大学名及び氏名をご記入ください。

■提出期限／平成29年9月15日（金）

■提出先／kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

事前課題で提出いただいたスタッフ・ポートフォリオ2部 ※研修会当日メンタリングを実施する際に使用します。

I R e r 養成講座

2017年11月17日(金)13:00~19日(日)15:00

【会場】愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市文京町3番)

<17日> 法学部本館 8階 大会議室
<18.19日>教育学部4号館 4階 マルチゾーン教室

【主催】教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

【後援】大学評価コンソーシアム

【対象】IRを担当している教職員(IRの経験が1年以上10年未満の者)

【目的】データ収集から教育改善の提案までの場面で、IRerに求められる知識や技能の習得を目指します。

定員

40名

(参加費無料)

到達目標

- ①IRの意義と方法について説明できる
- ②所属大学で実践しているIRの特徴と課題を説明できる
- ③教育改善を目的としたデータ分析を行うことができる
- ④データ分析を基に教育改善の提案ができる
- ⑤多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる

お申し込み

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。
下記のサイトからお申し込みください。

● <https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

【受付開始】平成29年9月 7日(木)正午

【申込締切】平成29年9月26日(火)正午

ホームページから申込みができない場合は、下記までメールで御連絡ください。

◆宛先 / kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

◆メール件名 / IRer養成講座申込み(氏名〇〇〇〇)

※いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。

※受付完了後、確認メールを送信します。

【事前課題】

- (1)本講座では、Excel(Windows版)を用いた説明をします。
参加者には、自習用の資料として「エクセル統計分析マニュアル」をメールで送付します。事前にご確認の上、研修にご参加ください。
- (2)自大学におけるIRの取り組みを簡潔にまとめたもの
(例:学生調査や授業アンケートの実施、報告、改善提案など)
をご提出ください(A4用紙2枚程度まで・様式は自由)。
※提出いただいた資料は参加者に配付し共有します。
※各資料の1枚目右上に、大学名及び氏名をご記入ください。

◆提出期限 / 平成29年10月20日(金)

◆提出先 / kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

■会場までのアクセス

【JR松山駅から】

・伊予鉄道市内電車 環状線①(古町方面行き)「赤十字病院前」下車

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、教学に関わる様々なデータ(各種調査や教務データ等)に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家(IRer)を養成するための講座を開講しています。

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点(拠点名称:教職員能力開発拠点)に認定され(認定期間5年)、平成26年7月には、さらに5年間の再認定を受けました。教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

■お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課

TEL: 089-927-9154

E-mail: kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp



※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

講師

ゲスト講師 嵐田 敏行（しまだ としゆき）氏 プロフィール

大学評価コンソーシアム総務担当副代表幹事／茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門(IEオフィス) 准教授
金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程を単位取得満期退学し、茨城大学に文部科学事務官として着任
2005 年から同大学評価室の専任教員として評価業務と IR 業務に従事
2014 年から現職

小林 直人（教職員能力開発拠点代表 愛媛大学教育企画室長 教授）
中山 晃（愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 准教授）
中井 俊樹（愛媛大学教育企画室 副室長 教授）
清水 栄子（愛媛大学教育企画室 講師）
小林 忠資（愛媛大学教育企画室 特任助教）
加地 真弥（愛媛大学教育企画室 特定研究員）

プログラム

■1日目 11月17日(金) 法文学部本館 8階 大会議室

時間	内容	担当
12:30～13:00	受付	
13:00～13:10	オリエンテーション	清水栄子
13:10～15:10	IRの意義と方法を理解する	中井俊樹・小林忠資
休憩15分		
15:25～16:00	学部の教育課題をIRでどのように解決するか	小林直人
16:00～17:30	教育改善をどのようにIRで支援するか	嵐田敏行
18:30～	情報交流会（参加任意／会費4,000円）	

■2日目 11月18日(土) 教育学部4号館 4階 マルチゾーン教室

時間	内容	担当
9:30～12:30	データを分析する	中山晃・清水栄子・加地真弥
休憩1時間		
13:30～14:30	分析結果を報告する	清水栄子
休憩10分		
14:40～18:00	教育改善の提案に向けたグループワーク	清水栄子

■3日目 11月19日(日) 教育学部4号館 4階 マルチゾーン教室

時間	内容	担当
9:30～11:30	教育改善の提案に向けたグループワーク	清水栄子
休憩1時間		
12:30～14:30	（グループ発表） 分析結果をもとに教育改善の提案をする	講師全員
14:30～15:00	全体振り返りとクロージング	講師全員

持参物

2日目と3日目の研修で使用しますので、ノートパソコンとUSBをご持参ください。

2. 研修プログラムの開発・提供

第2期の基本方針に基づき、19本の研修プログラムを提供した。今年度のプログラム参加者総数は429名であり、全てのプログラムにおいて事後アンケート回答者の90%以上が「満足」と回答した。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P.23～43に記載

(本拠点の研修プログラムの特徴)

1. FD／SD／IRの専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD／SD／IRの各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

特に、7月15日（土）～16日（日）に愛媛大学で開催した「ティーチング・ポートフォリオ（TP）作成ワークショップ」では、7名の教員がメンタリングを受けながら実際にTPを作成した。受講者からは「自分の中で漠然と考えていた事柄が明確な言葉として記録された」「自分の専門と異なる立場の先生から意見をいただけたことが自分の教育活動を見直す上で非常に有益だった」等の感想が寄せられ、TP及びメンターの意義を実感していただくことができた。

また、12月9日（土）～10日（日）に、「スタッフ・ポートフォリオ（SP）作成ワークショップ」を大学コンソーシアムえひめとの共催で愛媛大学にて開催し、四国、中国、近畿地方から職員5名の参加があった。参加者はSPについての理解を深め、自己を振り返り、メンタリングを通してキャリアビジョンを明確にしながらSPを作成した。事後アンケートでは、「SPを作成してよかった」との回答が得られただけでなく、メンタリングについて、自身の強みやビジョン、ゴールの明確化が促されたとして、メンターへの関心が伺えた。

教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(平成29年度)

	日 程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
1	4月6日(木)	学生のやる気を引き出すアイスブレイクの技法	FD	5	100
2	4月6日(木)	クラスルームコントロール	FD	5	100
3	5月11日(木)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－	FD/SD	8	100
4	5月18日(木)	アクティブラーニング入門セミナー	FD/SD	39	95.9
5	5月18日(木)	効果的なeラーニング活用方法(超入門編)	FD	8	100
6	5月19日(金)	学習評価の基本	FD	18	100
7	7月1日(土)～2日(日)	第28回授業デザインワークショップ	FD	10	100
8	7月15日(土)～16日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	7	100
9	8月21日(月)	講義のための話し方入門	FD/SD	17	100
10	9月11日(月)	3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー； アセスメント・ポリシー)の開発と一貫性構築	FD/SD	45	93.2
11	9月12日(火)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID) 入門 —ARCS動機づけモデルの活用—	FD/SD	9	100
12	9月12日(火)	ジグソー学習法入門	FD	10	100
13	9月14日(木)	問題発見・解決の技法	SD	26	92
14	10月13日(金)～15日(日)	ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 東京	FD	34	100
15	10月13日(金)～15日(日)	SDコーディネーター養成講座 in 東京	SD	18	93.7
16	11月17日(金)～19日(日)	IRer養成講座 in 愛媛	FD/SD	30	100
17	12月9日(土)～10日(日)	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	SD	5	100
18	12月14日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	43	100
19	3月2日(金)	愛媛大学教育改革シンポジウム	FD/SD	92	100
			合計	429	98.7

学生のやる気を引き出すアイスブレイクの技法

【実施概要】

▶講師

加地真弥(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年4月6日(木) 13:00~15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

5名[学内3名・学外2名_高知県立大学(2)]

▶目標

1. アイスブレイクを導入する効果を説明できる。
2. アイスブレイクの手法を知り、授業で活用できる手法を選択できる。
3. 参加者同士でアイスブレイクの実践例を共有し、実践へのヒントを得ることができる。

▶内容

初回の授業でどのような工夫をされていますか。受講者同士や受講者と教員の緊張をほぐし、授業に参加しやすい雰囲気をつくる手法としてアイスブレイクがあります。学生同士の距離を縮め、話し合いなどの共同作業をスムーズに行えるよう環境をつくります。また、初回の授業だけでなく、アイスブレイクは授業の途中でも効果を高めることができます。

このプログラムでは、授業で使えるアイスブレイクの技法を実際に体験し、アイスブレイクがもつ様々な働きを踏まえながら、どのような効果を期待して授業に導入するのか考えていきます。さらに、アイスブレイクを実践するにあたっての悩みや実践例を共有し、授業に役立つアイスブレイクを持ち帰っていただきます。

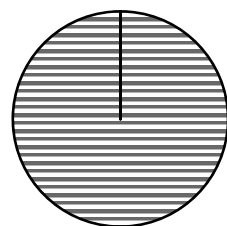


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

5名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



そう思う
100.0%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 様々なアイスブレイクの方法を教えていただいたお陰で学生間の雰囲気や行きあたりばったりでしたが、アイスブレイクを取り入れるにも計画が大事だと気付くことができた。
- 講師の先生が非常に親しみやすく、学びやすかった。

〔この研修の改善点〕

- 体験編と座学編と2回シリーズで構成してもよいのではないかな。
- 体験してみることで実感できるし、使える、使えないが判断しやすくなるので、紹介するだけで終わったものの中から一つでも多く体験したかった。



クラスルームコントロール

【実施概要】

▶講師

清水栄子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年4月6日(木) 15:30~17:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス

愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

5名[学内4名・学外1名_今治明德短期大学(1)]

▶目標

1. 学生が授業に集中できない理由を説明できる。
2. クラスルームコントロールについて自身の言葉で説明できる。
3. 学生の学習意欲を向上させる方法を提案できる。

▶内容

1. 授業中の学生
2. クラスルームコントロールとは
3. 2つのアプローチ
4. 受講のルール
5. 学生の学修意欲のための工夫
6. 振り返り

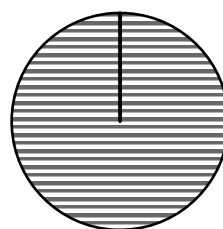


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

5名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



そう思う
100.0%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 新学期が始まる前に、自分のクラスマネジメントのやり方を、よりよくする案が分かって良かった。
- 学生の意欲の欠如を学生のせいにせず、工夫し、努力してやってみようという教員の意欲向上に繋がった。
- 日頃から考えていることを教員間で話し合う事ができて良かった。

〔この研修の改善点〕

- 愛大での実際のケースを使って、ケースメソッドができればよい。



学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 －課題分析図の活用－

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成29年5月11日(木) 13:00～15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名[学内4名・学外4名_聖カタリナ大学(4)]

▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID(インストラクショナル・デザイン)理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるばいのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に、教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。

これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。

本プログラムでは、課題分析のワークを通して、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

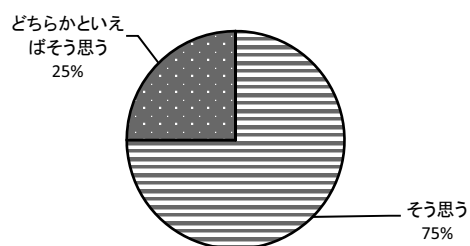


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○授業の計画の立て方は自分なりに考えていたが、具体的な分析方法を知る事ができて自分のプランの課題が見えやすくなった。

○最初にGoal(テスト)を決めてからやるという方法は参考になった。1回1回の授業設計の必要性を再認識した。

〔この研修の改善点〕

○授業未経験で受講したが、授業を経験した上で受講した方がもっと活かせたと思う。行うことを事前にもう少し知りたかった。



アクティブラーニング入門セミナー

【実施概要】

▶講師

小林忠資(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年5月18日(木) 13:30～15:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

・愛媛大学会場 15名[学内15名・学外0名]
・遠隔システム 24名[学外24名 徳島大学(6)、徳島文理大学・短期大学部(17)、香川高等専門学校(1)]

▶目標

1. アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
2. アクティブラーニングの教育手法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
3. 自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの教育手法を列挙できる。
4. アクティブラーニングの教育手法を実践することができる。

▶内容

1. 意義ある学習とは
2. アクティブラーニングとは
3. 期待される効果
4. 説明、発問、指示
5. さまざまなアクティブラーニングの技法
6. 学習課題の組み立て方
7. アクティブラーニングの課題



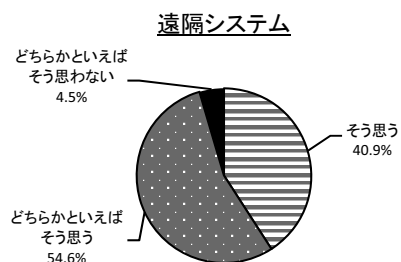
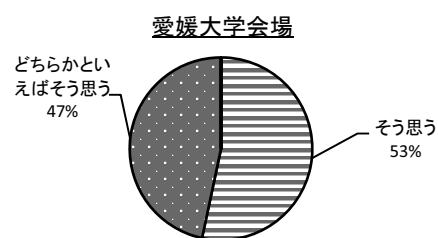
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大学会場 15名(100.0%)

遠隔システム 22名(91.7%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- アクティブラーニングのデメリット、具体的手法を学ぶと共に、自分の授業にどう生かすかを考えることができた。
- 自分の授業に生かせるアクティブラーニングの手法について考えることができた。
- 発問の必要性について改めて学ぶことができた。

〔この研修の改善点〕

- テーマがアクティブラーニングについてなので、よりアクティブラーニングの手法で(ペアワーク、グループワークだけだった為)進めて頂けると面白かったかと思う。



効果的なeラーニング活用方法(超入門編)

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成29年5月18日(木) 15:45～17:15

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名[学内8名・学外0名]

▶目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

▶内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法が知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

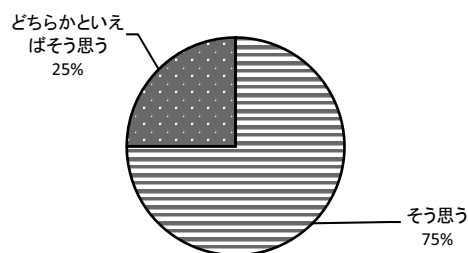
1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介
(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(100.0%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- e-learningについて、様々な種類、方法、利用目的など知ることができた。
- 自分の授業で、具体的にこのように使いたい、という案ができた。
- ワークシートを実際に作成することにより、自分の持っていたイメージが少し具体的なものになった。

〔この研修の改善点〕

- 次回、発展編を受けたい。



学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

中井俊樹, 加地真弥(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年5月19日(金) 15:30~17:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

18名[学内11名・学外7名, 愛媛県立医療技術大学(1),
聖カトリナ大学(5), 聖カトリナ大学短期大学部(1)]

▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 到達目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
3. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
4. 公正で厳密な成績評価を行うことができる。

▶内容

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 優れた評価の条件
7. 作問の具体的方法
8. 評価のさまざまな側面

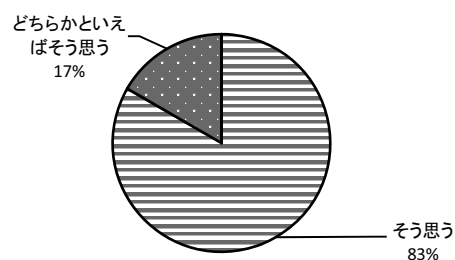


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

18名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 普段基準がずれていくことを気にしていたが、それを是正するために基準を形式面、内容面で限定することを学んだ。
- 評価に関する意識が、大きく変わった。学生の成長を考えた評価を行いたい。
- これまで評価方法については漠然と考えていましたが、具体例や参考になるデータを教えていただいて、成績評価について、深く考える機会をいただいた。

〔この研修の改善点〕

- 分野の異なる先生の授業があまりイメージできなかった。分野でまとめたテーブルで話した方が、参考になると感じた。
- 全項目話し合いができると良かった。



第28回授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林直人, 中井俊樹,
小林忠資, 加地真弥(愛媛大学教育企画室),
仲道雅輝
(愛媛大学総合情報メディアセンター 兼 教育企画室)

▶日時

平成29年7月1日(土)～7月2日(日)

▶場所

いまばり湯ノ浦ハイツ

▶参加者

10名[学内7名・学外3名 愛媛県立医療技術大学(1), 徳島文理大学(1), 今治明德短期大学(1)]

▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し, 学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 教育評価の原理と種類を理解し, 学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。
5. 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。

▶内容

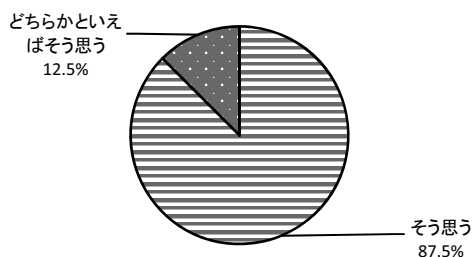
1. オリエンテーション
2. アイスブレイキング
3. 講義「何が学生の学びを促進するのか」
4. 講義「コース設計&クラス設計の考え方」
5. 講義「シラバスの書き方」
6. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅰ」
7. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅱ」
8. 講義「様々な授業方法」
9. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅲ」
10. 講義「学習評価の基本」
11. 中間発表
12. 講義「クラス設計」
13. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅳ」
14. グループワーク「共通教育科目の開発Ⅴ」
15. 模擬授業
16. 閉会式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(80.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 講義の目的, 内容や受講者に合わせて適切な授業法を選択し, 講義を行うことを学んだ。実際の講義で授業法を使用し, 実施効果により調整を行い, 使い方に対する理解を深まるようにしたい。
- 実際にグループワークを進める難しさを感じたが, それ以上に他人の意見が参考になることを知った。そのような点も含めて, 学生にグループワークの意義を伝えたい。
- コース設計とクラス設定で必要なことを学んだ。目標と評価方法を一致させるようにしたい。

〔この研修の改善点〕

- 手元に配っていただいていたテキスト「大学教員のための授業方法とデザイン」を, もう少し紹介していただき, 見る時間があればよかった。



ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

松本高志, 奥本良博(阿南工業高等専門学校)
長崎睦子(愛媛大学英語教育センター)
小林直人, 清水栄子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年7月15日(土)~16日(日)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ
1階アクティブラーニングスペース1, 2, 3 等

▶参加者

7名[学内7名・学外0名]

▶目的

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを理解する。
2. TPの必要性・有効性について知る。
3. TP作成の要点と手順を理解する。
4. TPを作成する。

▶内容

2日間を通しての参加となります。メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業
情報交換会(任意)

<2日目>

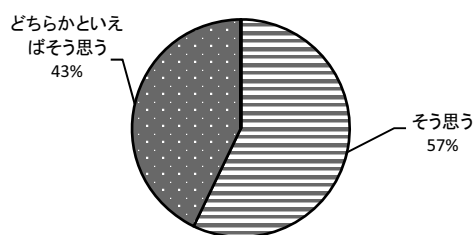
1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

7名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- ワークショップに参加してティーチング・ポートフォリオの作成時間を強制的に割くことで教育を振り返り、教育目標を立てることができたことは自分のキャリアに大いに役立つと思う。
- 自分の中で漠然と考えていた事柄が明確な言葉として記録された点が最大の成果だと思う。
- 他学部の先生と関わった事で、他学部についても興味・関心が持てるようになった。
- 自分の専門と異なる立場の先生から意見をいただけたことが自分の教育活動を見直す上で非常に有益だった。

〔この研修の改善点〕

- 二日目の後半によりやく、お互いのティーチング・ポートフォリオの進捗状況について話す機会が出てきたが、一日目からもっとコミュニケーションを取りやすい仕組みにすると全員のポートフォリオの質が上がるのではと思われる。
- ポートフォリオの作成に入る前に教育論を議論する場があるとよいのではないかな。



講義のための話し方入門

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)
飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

▶日時

平成29年8月21日(月) 13:00～15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

17名[学内12名・学外5名_今治明德短期大学(1), 松山東雲女子大学(1), 聖カタリナ大学(2), 聖カタリナ大学短期大学部(1)]

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“よい”授業ができるようになる。
⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業
 - ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

▶内容

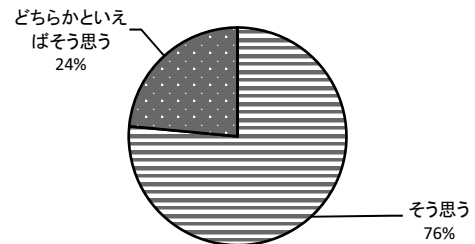
1. イントロダクション
 - ・本日のメニュー ・本日の目的と目標
2. 講師が気をつけていること
 - ・学生にとってわかりやすい話し方とは？
 - ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
 - ・発音しにくい言葉 ・区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
 - ・聞き手が理解しやすい話し方
 - ・どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師(教育協力者)による発声練習
 - ・大きな声を出すためには？
 - ・はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
 - ・あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大学会場 17名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- 言葉について、声の出し方について、基本に立ち返って学ぶことができた。
- プロの方の講義を直に受講できてよかった。今後ガイダンス等を担当する際に活かしていきたい。
- リラックスして受講することができ、先生方の言葉がスーッと入ってきた。
- すぐに使えそうな日常生活のテクニックだと思う。



【FD/SD】

3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー; アセスメント・ポリシー)の開発と一貫性構築

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年9月11日(月)16:00~17:30

▶場所

遠隔配信

▶参加者

遠隔システム45名[学外45名 香川大学(1), 今治明德短期大学(11), 徳島文理大学[徳島キャンパス](13), 徳島文理大学[香川キャンパス](9), 高知県立大学(11)]

▶目標

中央教育審議会大学分科会大学教育部会が示した(平成28年3月31日)「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、所属する大学等の「3つのポリシー」の原案を策定できる。

▶内容

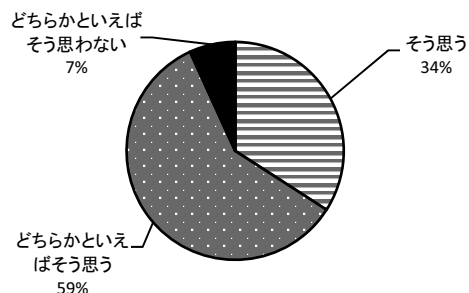
1. 大学等に求められている「3つのポリシー」を策定する際には、「学力の3要素」に含まれる内容を網羅する必要がある。これに関連して、「3つのポリシー」を誰が読むのか、誰に向けて発信するのかを考える。
2. それぞれの大学等の「建学の精神」「大学憲章」と「3つのポリシー」とがどのように関係するのか、大学と学部の「3つのポリシー」の間の関係性をどうするのか、それらの階層性を規定する必要がある。
3. ディプロマ・ポリシー(DP)の具体例を紹介する。
4. カリキュラム・ポリシー(CP)の具体例を紹介する。
5. CPを具体的に表現するための、「履修系統図」などのツールを紹介する。
6. アドミッション・ポリシー(AP)の具体例を紹介する。特にAPは「学力の3要素」との関連づけを強く求められている。
7. 「4つ目のポリシー」として、教育学習効果を測定するためのアセスメント・ポリシーを構築する必要性を考える。
8. 「3つのポリシー」の一貫性を構築する手法について考える。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

44名(97.8%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 3つのポリシーの開発の様子を知ることができたとともに、それをどのように評価していくか、見直していくかについて、いろいろな知見を得る事ができて良かった。
- 提示されたことは、これからの改善(ポリシーの見直し)に向けてヒントになることが多々あった。
- アセスメントポリシーが4つ目のポリシーでなく(3+1)もよくわかった。
- 他大学の具体例を聞くことができ、参考に今後、大学での指導の在り方を考えていきたい。

〔この研修の改善点〕

- このたびの内容については、各大学の事例をもっと知りたい。
- シラバスの到達目標とディプロマポリシーとの関係、到達目標と評価の関係が知りたい。



【FD/SD】

学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 —ARCS 動機づけモデルの活用—

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

平成29年9月12日(火) 13:00~15:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

9名[学内6名・学外3名_聖カタリナ大学(3)]

▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン(ID / 教育設計)」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法(ARCS動機づけモデル)を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

▶内容

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(教育設計)(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけるための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

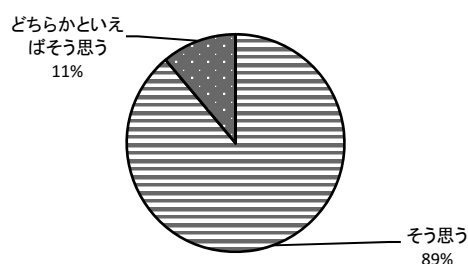


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

9名(100.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 何となく考えて授業をデザインしていたが、具体的にARCSという分類にしたがって授業を作る事で、より自分としても受講生としてもわかりやすい講義ができるかなと感じた。
- ARCS分類が難しく、1人では判断できない内容が多くあったが、グループワークメンバーの意見を聞くことによって、判断方法を深めていくことができた。
- 動機づけに関して体系だったモデルがあることを知り、役に立った。



ジグソー学習法入門

【実施概要】

▶講師

村田晋也(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年9月12日(火) 15:30~17:30

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

10名[学内4名・学外6名_愛媛県立医療技術大学(1), 聖カタリナ大学(5)]

▶目標

1. ジグソー学習法の基本的な仕組みについて説明できる。
2. ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方を体験し、授業での活用を検討できる。

▶内容

社会心理学者K. レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とはいても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。

そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の1つを体験して頂ければと考えています。これは、社会心理学者E. アロンソンが1978年著書The Jigsaw Classroom(松山安雄訳『ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方』)の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本セミナーの主たる目的としています。

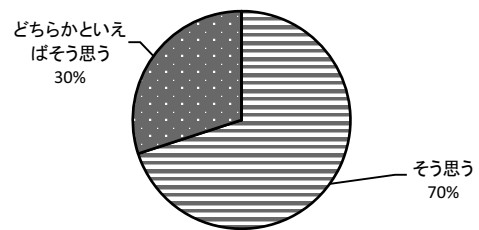


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

10名(100.0%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 実際に体験して学ぶことができ、ジグソー学習法に興味を持てた。
- 自分が行っていた講義の改善点を見つけることができ、よかったと思う。
- 今後の授業に生かすことができる内容であった。
- 講師の先生の説明が非常に理解しやすかった。



問題発見・解決の技法

【実施概要】

▶講師

丸山智子(愛媛大学教育企画室)

▶日時

平成29年9月14日(木) 10:00~12:00

▶場所

愛媛大学城北キャンパス

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

26名[学内14名・学外12名_徳島大学(2), 高知大学(1), 高知県立大学(2), 高知工科大学(1), 聖カタリナ大学(3), 松山大学(2), 今治明德短期大学(1)]

▶目標

1. 問題解決とは何かを理解することができる。
2. 問題解決のステップを説明することができる。
3. 問題解決技法を仕事へ適用する策を講じることができる。

▶内容

1. 問題解決におこる問題を考える
2. 「現状」と「あるべき姿」を認識する
3. 現状をなぜ改めて理解するのか
4. あるべき姿の合意形成を図る
5. 解釈をし、原因を分析する
6. 解決策の検討方法
7. 問題解決の5つのステップ
8. 問題解決技法の職場への適用

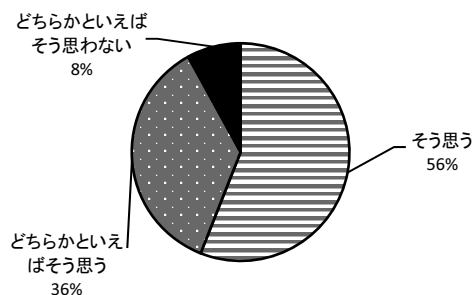


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

25名(96.2%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 問題解決をする際、どの視点から見るかで考え方も変わるので、課内での話し合いなどの際には注意したいと思った。
- 問題発見・掘り下げ方について方法を学ぶことができてよかった。
- 日々の業務や部署の体制等について、客観的に見つめ直す機会となった。
- グループワークを通して、自分とは全く違う視点を取り入れることができ、有意義な時間となった。

〔この研修の改善点〕

- 問題解決のための手順については理解できたが、具体例がいくつかあるとより理解が深まったと思う。
- 解決までの具体的なワークをもう少し実践できる時間があれば良かった。



ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 東京

【実施概要】

▶講師

佐藤浩章(大阪大学)
榊原暢久, ホートン広瀬恵美子(芝浦工業大学)
小林直人, 中井俊樹, 小林忠資(愛媛大学)

▶日時

平成29年10月13日(金)～10月15日(日)

▶場所

芝浦工業大学 芝浦キャンパス

▶参加者

34名[学内0名・学外34名_山梨学院大学(1), 岩手県立大学(1), 神奈川工科大学(1), 東京薬科大学(2), 国士舘大学(4), 近畿大学(1), 芝浦工業大学(2), 関西学院大学(2), 岡山大学(1), 帝京大学(2), 東京大学(1), 札幌医科大学(1), 日本福祉大学(1), 大分大学(1), 東日本国際大学(1), 東邦大学(1), 東洋大学(2), 日本赤十字秋田看護大学(2), 群馬医療福祉大学(1), 東洋英和女学院大学(1), 福岡工業大学(1), 昭和女子大学(1), 電気通信大学(1), 東京電機大学(1), 大阪医療福祉専門学校(1)]

▶目標

1. 所属する機関においてなぜFDが必要なのかを説得力をもって説明できる
2. 所属する機関のFD活動を振り返り, 特徴と課題を抽出することができる
3. FDのさまざまな場面で求められる課題解決の方法を提案することができる
4. FDに関する多様な考え方や実践事例を尊重し, 共に学びあう雰囲気貢献できる
5. 他機関のファカルティ・ディベロッパーと友好的なネットワークを構築する

▶内容

<1日目>

1. オープニング
2. オリエンテーション
3. 「FDを理解する」
4. 「FDを設計する」
5. 「所属大学のFD活動の振り返り」

情報交換会(任意)

<2日目>

6. 「授業コンサルティングを運営する」
7. 「学生参画型FDを運営する」
8. 「ティーチングポートフォリオを取り入れる」
9. 「カリキュラムを改革する」
10. イベント「Q&Aで学ぶFD」
11. 「組織開発につながるFDを実施する」
12. 「ファカルティ・ディベロッパーとして成長する」
13. 「FDの企画案を作成する」

<3日目>

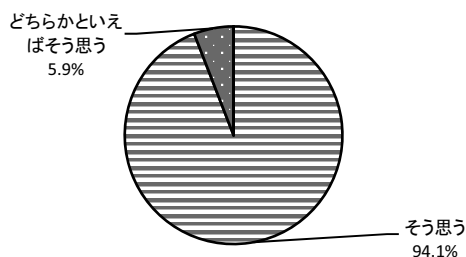
14. 「FDの企画案を作成する」
15. FDの企画案の発表と共有
16. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

34名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 具体的なFD改善の技法から基本的な考え方まで, 幅広く学べた。
- 自大学のFD資源について気付くことができた。
- 先生方の事例も豊富で良かった。
- 経験豊富なグループメンバーの実践を聞くことで, 自組織に取り入れられる内容が多く, 大変勉強になった。
- 他大学のFDeの方と知り合えたこと。今後もネットワークを築いていきたい。

〔この研修の改善点〕

- 各グループで出た課題を, 他のメンバーで掘り下げられると良かった。
- 各受講者の知識レベルがもう少し揃っていると, より良い学びになったと思った。



SDコーディネーター養成講座 in 東京 1/2

【実施概要】

▶講師

鈴木洋(芝浦工業大学)

鎌田雅子(明星大学)

清水栄子, 丸山智子, 吉田一恵, 河野太志(愛媛大学)

▶日時

平成29年10月13日(金)～10月15日(日)

▶場所

芝浦工業大学 芝浦キャンパス

▶参加者

18名[学内0名・学外18名_宮城大学(1), 國學院大学(1), 大阪医科大学(1), 東京薬科大学(1), 芝浦工業大学(2), 電気通信大学(1), 熊本学園大学(1), 東京音楽大学(1), 藍野大学(1), 日本赤十字広島看護大学(1), 大阪経済大学(1), 東京家政大学(1), 山梨学院大学(1), 久留米大学(1), 北星学園大学(1), 北海道大学(1), 明石工業高等専門学校(1)]

▶目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくること

▶内容

<1日目>

1. オープニング
 2. オリエンテーション
 3. 「SD, SDGについて理解する」
 4. 「人材育成ビジョンの必要性について理解する」
 5. 「組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ」
- 情報交換会(任意)

<2日目>

6. 「SP, メンタリングの導入事例及びその有効性について」
7. 「個人のビジョン作成ワークショップ」
8. 「メンタリングを実践する」
9. 「個人のビジョン作成ワークショップ」
10. 「SDプログラムを企画・運営する」
11. 「SDプログラムを評価する」
12. 「SDプログラムを開発する」

<3日目>

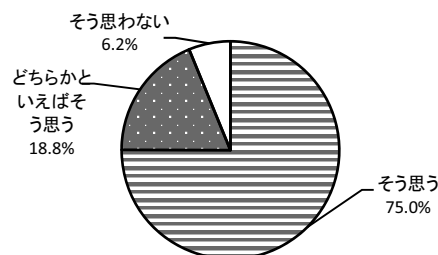
13. 「SDプログラムを開発する」
14. SDプログラム発表と共有
15. 振り返り
16. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

16名(88.9%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 本学では人材育成ビジョンや体系的なSDプログラムを今から検討する段階であり、学んだことの多くを大学に持ち帰って実践できると感じたこと。
- SDを推進する上で必要な要件を網羅的にプログラムに組み込んでいただいて、非常に有意義だった。
- ビジョンの作成と個人のビジョンづくりを行った上でのSDプログラム開発という流れだったので、組織のベクトルと個人の思いを意識した研修づくりができ、大変参考になった。
- 他大学の方との交流機会を多く持てた。SDについて多様な意見が聞け、視点の異なるアイデアが出せた。

〔この研修の改善点〕

- 「コーディネーター」養成ですので、各SD研修をどの様に体系的に組み立てるのか、どう関連性を持たせるのかなど、SDプログラム全体をとらえた内容もあれば、より良かったと思う。
- 内容的には盛り沢山だった。一つ一つをもう少し深掘りできれば最高だった。



SDコーディネーター養成講座 in 東京 2/2

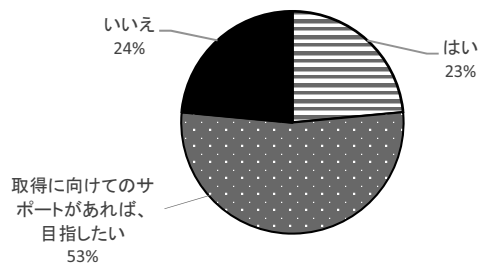
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

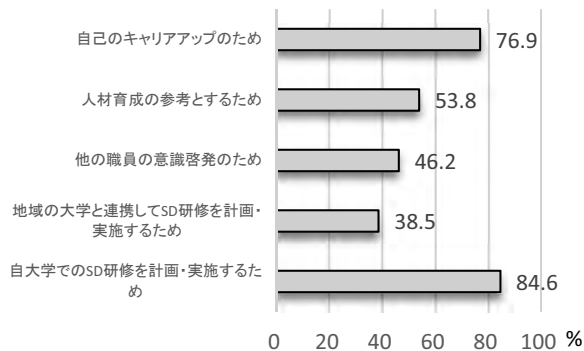
16名(88.9%)

▶SDC資格取得について

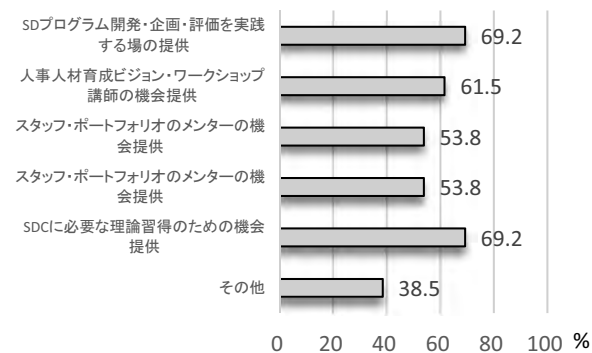
・今後SDC資格取得を目指したいか



・SDCの認定を目指す理由（複数選択可）



・SDC資格取得に向けて必要とを感じるサポート（複数選択可）



・その他の回答

SDに関する相談の場、職場の理解や協力等

▶コメント

〔SDC資格取得について〕

○SDC資格は講師経験はもとより、自分に適性があるのかどうか正直自分自身に疑問があるので、適性についてのポイントを教えていただきたい。

○今回の講座で特に重要性を感じたメンターの存在について、今後も理解を深められる機会があれば参加したい。



【F D / S D】

IRer養成講座 in 愛媛

【実施概要】

▶講師

畠田敏行（茨城大学）、
中山晃（愛媛大学英語教育センター）
小林直人、中井俊樹、清水栄子、小林忠資、
加地真弥（愛媛大学教育企画室）

▶日時

平成29年11月17日（金）～11月19日（日）

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
法文学部本館大会議室、教育学部4号館マルチゾーン教室

▶参加者

30名〔学内2名・学外28名〕杏林大学(1)、大分大学(2)、東京医科大学(1)、神田外語大学(1)、岡山県立大学(1)、神戸学院大学(1)、長崎県立大学(1)、札幌医科大学(1)、保健医療経営大学(1)、北陸大学(1)、川崎医科大学(2)、立命館大学(1)、香蘭女子短期大学(1)、中京大学(2)、名城大学(1)、神戸大学(1)、東日本国際大学(1)、鈴鹿医療科学大学(2)、東洋大学(1)、大阪府立大学(1)、愛知医科大学(1)、駒澤大学(2)、岡山大学(1)〕

▶目標

1. IRの意義と方法について説明できる
2. 所属大学で実践しているIRの特徴と課題を説明できる
3. 教育改善を目的としたデータ分析を行うことができる
4. データ分析を基に教育改善の提案ができる
5. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる

▶内容

〔1日目〕

1. オリエンテーション
 2. 「IRの意義と方法を理解する」
 3. 「学部の教育課題をIRでどのように解決するか」
 4. 「教育改善をどのようにIRで支援するか」
- 情報交換会（任意）

〔2日目〕

5. 「データを分析する」
6. 「分析結果を報告する」
7. 教育改善の提案に向けたグループワーク

〔3日目〕

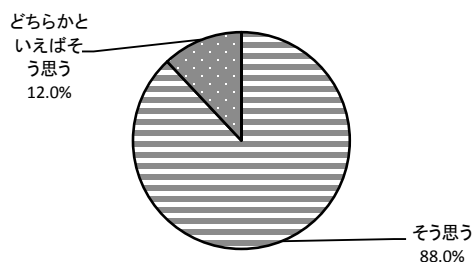
8. 教育改善の提案に向けたグループワーク
9. グループ発表
10. 全体振り返りとクロージング

【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

26名（86.7%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 参加前は、3日間の長さが不安でしたが、概論のみでなく、具体的なデータ解析事例、質問（Q&A）などがあり、良かった。
- 大学、組織、教員、職員の枠を越えて多様な考えを知ることができた。
- 統計の基礎を実際にExcelを操作しながら学ぶことができた。現場の事例を結果だけでなく、プロセスを含めて知ることができた。
- 高いレベルの人と話をできたこと、他大学の取組をみることもできたこと。

〔この研修の改善点〕

- 今回のようなコースの他にアドバンスコース等も将来的にあるといいと思う。
- 共通の事前課題を事前に提示して分析、検討してくるというのがあってもよいと思った。
- いろんな地方で毎年やってほしい。



スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

近藤智彦(愛知大学)
藤巻晃(徳島文理大学)
小林直人, 清水栄子, 丸山智子, 吉田一恵,
西尾澄気(愛媛大学)

▶日時

平成29年12月9日(土)～12月10日(日)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミューズ1階アクティブラーニングスペース2 等

▶参加者

5名[学内0名・学外5名]関西学院大学(1), くらしき作陽大学
(1), 徳島大学(1), 高知工科大学(1), 香川高等専門学校(1)]

▶目標

1. スタッフ・ポートフォリオのメリットについて説明できる。
2. スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター、メンタリングの重要性について説明できる。
3. 自身のキャリアを振り返ることができる。
4. 自身のキャリアのビジョンについて考えることができる。
5. スタッフ・ポートフォリオを作成することができる。

▶内容

[1日目]

1. オープニング
2. 【レクチャーⅠ】
「スタッフ・ポートフォリオ(SP)について」
「SPを作成することのメリット、組織にとってのメリットについて」
「SPにおけるメンター・メンタリングについて」
3. 【ワークショップⅠ】「職員としてのキャリアの振り返り～なぜ大学職員になったのですか?～」
4. 個人メンタリング
5. SP作成作業
6. メンターとメンティーで振り返り
情報交換会(任意)

[2日目]

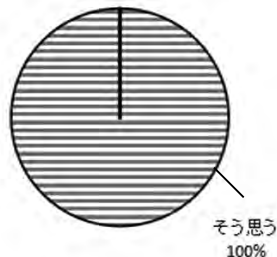
1. 【レクチャーⅡ】「大学職員としてのキャリアを考える」
2. SP作成作業 3. 個人メンタリング
4. ランチタイム
5. SP作成作業&発表資料準備
6. 参加者全員でSP作成の振り返り
7. クロージング

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

5名(100%)

▶満足度: スタッフ・ポートフォリオを作成してよかった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 自らのこれまでのことについて振り返ることができた。
- これからの活動指針になった。若手職員にも活用していきたい。
- メンタリングについて、自分以外の視点から、改めて気付くことができる点が多かった。

〔この研修の改善点〕

- ビジョンとゴールの違い、組織と個人の違いや内容が、記入の手順書を読んだだけで少し分かりにくい印象を受けた。



学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学総合情報メディアセンター
兼教育企画室)

▶日時

(愛媛大学)平成29年12月14日(木) 10:00~12:00
(e-learning)平成29年12月15日(金)~平成30年1月31(水)

▶場所

愛媛大学城北キャンパス
愛大ミュージ1階アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

・愛媛大学会場 8名[学内5名・学外3名_徳島大学(1), 聖カ
タリナ大学(1), 人間環境大学(1)]
・e-learning 35名[学内14名・学外21名_徳島大学(10), 聖カ
タリナ大学(1), 香川大学(3), 徳島文理大学(6),
香川高等専門学校(1)]

▶目標

1. シラバスの役割を説明できる。
2. 授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
3. 適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

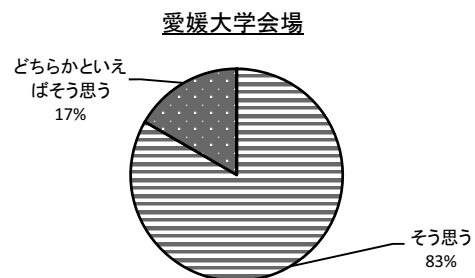
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か？
・定義
3. 授業題目・キーワードの書き方
・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
・到達目標の書き方
6. 授業内容・スケジュールの書き方
・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組み
せるコツ
・eラーニングを活用した課題への取り組みせ方
8. 受講条件の書き方
・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
9. 受講ルールの書き方
・受講のマナー
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大学会場 8名(100.0%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- シラバスを系統的に書くトレーニングを受けたことがなかったで、今後のシラバス作成に非常に役立つと思う。
- シラバスに書く目標と目的の区別が明確になった。
- 具体的に説明していただき、わかりやすかった。

〔この研修の改善点〕

- 今回の研修でも行われたが、受講生のワークをもっと取り入れてくれたら良いと思う。
- 互いに持ち寄ったシラバスを検討できれば良かったと思う。



愛媛大学教育改革シンポジウム 1/2

【実施概要】

▶講師

愛媛大学教員（愛大GP、国際連携GP取組担当者 他）

▶日時

平成30年3月2日（金） 13:30～15:50

▶場所

愛媛大学城北キャンパス 共通講義棟B及び総合教育棟1
・ポスターセッション: 共通講義棟B 1階 CRI-1
・事例発表: 総合教育棟1 3階 305

▶参加者

92名[学内90名・一般2名]

▶目的

愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせるため、愛媛大学教育改革促進事業(旧国際連携促進事業の継続分を含む。以下同じ)採択課題の進捗状況及び成果を含め、学内外で評価されている本学の教育改革の取組について、広く公表し、教育内容・方法の改善に関する理解を深める。

▶内容

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」(愛大GP)を行ってきましたが、学生の海外派遣・受入に特化した「愛媛大学国際連携促進事業」(国際GP)との発展的統合を行い、「愛媛大学教育改革促進事業」(愛大教育改革GP)として今年度から再スタートしました。本シンポジウムは、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声をきくことができます。

1. 愛媛大学の教育改革について
2. 学内の教育改革の事例報告
 - ①法文学部 ②教育学部 ③質疑応答
3. 愛媛大学教育改革促進事業採択取組の実施総括(ポスターセッション)

ポスターによる発表、参加者との質疑応答を通じ、発表者・参加者双方が教育内容・方法の改善に関する理解を深める。また、学生や一般参加者に対しても、愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせる。

- ・28年度採択グループ: 2年間の実績報告
- ・29年度採択グループ: 1年間の中間報告又は実績報告

【平成28年度 採択プロジェクト・プログラム名】

＜愛大GP＞

教育学部	多様化・複雑化する地域の教育ニーズに対応した教員養成の高度化 ～実践知の蓄積による教職大学院のセンター機能の強化～
医学部	医学部における「キャリア形成教育」(医療人としてのプロフェッショナル教育)カリキュラムの再構成
教育学部	愛媛で教員になるモチベーションを高める教育内容・方法の充実
理学部	理学部生を対象とした総合的キャリア教育
農学部	地域を「知る」、「体験する」、地域と「出会う」、「協働する」ための地域指向型プログラムの整備とキャリアデザイン・ポートフォリオの導入
教育学部	学力等を構成する重要な三つの要素の育成過程の解明と評価方法の開発
社会共創学部	高大接続入試改革における多面的評価の現状と課題
理学部	学生を中心とした高大接続事業の展開
法文学部 他	分野・教科・科目の枠組みを超えた高大接続教育システムの構築
法文学部	法文学部人文社会学科実践科目群「基礎留学英語」で活用するオーダーメイド型短期英語研修準備教科書の新規開発
法文学部	「基礎フランス語」等で活用するE-ラーニング教材の開発

＜国際連携GP＞

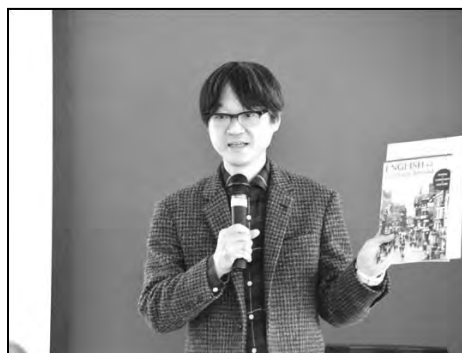
社会共創学部 (組織横断型)	スポーツを中心とした正課外活動の「国際化」プログラム
法文学部	外国大学との協同フィールドワーク等の推進
教育学部 (組織横断型)	フィリピン大学との連携による国際教育実習プログラムの拡充と系統化
教育学部	遼寧師範大学との提携による日中文化比較研修
国際連携推進 機構 (組織横断型)	Onsite practice of the soft skills necessary for communication in English
附属高等学校	グローバルマインドを育むための、海外研修生受け入れによる実践的活動プログラムの開発
理工学研究科 (工)	東・東南アジア地域の協定大学との双方向型短期留学プログラムの拡充
理工学研究科 (工)	ダブルディグリープログラムの推進
医学系研究科	韓国と中国との学生相互交流を通じた医学教育国際連携の推進

【平成29年度 採択プロジェクト・プログラム名】

教育学部	75歳現役社会に対応する教員等研修プログラム開発事業
理学部	理学分野における理工系人材育成のための大学間連携体制の整備
医学部	愛媛シームレス地域医療人育成プログラム
工学部	技術英語による技術コミュニケーション力育成プログラムの新規開発と新カリキュラムへの導入
工学部	ABET基準に準拠した国際通用性のあるPBL教育の導入による工学教育のグローバル化
教育・学生支援機構 学生支援センター	「見えない」障害を支援する：インクルーシブな教育環境を創るために
教育学部	プログラミング教育の高い指導力を育成する小学校教員養成カリキュラムの開発
社会共創学部	学修ポートフォリオ(ecrip)を活用したメタ認知形成の手法
教育・学生支援機構 共通教育センター	全学共通教育として求められる知財教育科目の開発と試行
教育・学生支援機構 英語教育センター	合理的配慮が必要な学生およびリメディアル学生のための英語eラーニング教材の開発
教育・学生支援機構 学生支援センター	SCVを核とした準正課教育プログラムの開発と実践「地域と共に輝く愛大生育成プロジェクト」
国際連携推進機構	海外研修に関する危機管理体制充実のための学内講師養成事業
理学部	物理教育の効率化のためのeラーニング教材開発
理学部	スマホをフル活用する新たな授業モデルの提案
工学部	ロボット工学の理論的な知識と実務への応用力を養うための教育環境構築とロボット教育による地域貢献方法の模索
工学部	ビッグデータを利用した指数「卒業予報」およびカスタマイズ可能な出席管理システムの開発
教育・学生支援機構 教職総合センター	教職課程の学習成果を可視化するための自己評価尺度の開発
教育・学生支援機構 教育企画室	教職協働による教育改革を実現する新規SDプログラムの開発
法文学部	中国復旦大学との教育・学術的なインターンシップ歴史学・考古学、博物館学領域における教育効果の向上を目指す取組
教育学部	地域の学校との連携による国際教育実習
社会共創学部	ミャンマーの持続可能な社会のための人材育成に貢献する国際協働教育プログラムの構築
理学部	韓国国立交通大学校との教育研究資産の補完による研究者、高度技術者の育成



愛媛大学の教育改革について



事例報告の様子①



事例報告の様子②



ポスターセッションの様子

3. 講師派遣 / オープン・オフィス

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、平成30年度2月末までに42機関からの依頼を受け、59件の講師派遣を行った。研修講師や研修内製化のためのアドバイスをを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している。

＜平成29年度講師派遣件数＞

平成30年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣数	2	2	13	6	11	8	15	2	59

＜平成29年度講師派遣先での研修プログラム例＞

- ◆アクティブ・ラーニング
- ◆カリキュラム改善ワークショップ
- ◆アカデミック・アドバイジング
- ◆教職協働の推進と大学職員の能力開発
- ◆SDマップ作成
- ◆部下を育てるメンタリング 等

＜研修講師派遣先からの声＞

- ・抽象的な理念、概念の話だけでなく、愛媛大学の具体例を用いて説明いただいたのでとても理解し易かった。
- ・具体的な授業、明日から使えるテクニックなど得るものが多く、参加してよかった。
- ・講師のレクチャースタイルそのものが大変参考になった。
- ・SDへの認識は研修によって高まってきたのでこれからが大切だと感じている。
- ・グループワークがあり、実際にどういった観点をもって業務に取り組むべきかのヒントが得られた。

※講師派遣先から提出された報告書の一部をP.46～53に掲載。

また、全国の高等教育機関からの訪問調査に対応するため、年5回オープン・オフィスを設定している。

訪問対応日	内 容
平成29年 6月29日（木）	・教育企画室の業務と体制 ・愛媛大学における教職員の能力開発 ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク関係(SPOD) ・教職員能力開発拠点関係 ・西日本学生リーダーズ・スクール(UNGL) ・愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)
10月12日（木）	
11月16日（木）	
12月14日（木）	
平成30年 1月11日（木）	

さらに、オープン・オフィス以外の個別訪問も受け付けており、今年度は9件の依頼に対応した（平成30年2月末現在）。個別訪問の依頼を受けた際は、事前に質問事項を確認し、ニーズに最適な教職員が対応にあたっている。

＜平成29年度来訪機関数＞

平成30年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
来訪数	0	0	2	1	4	1	0	2	10

※訪問件数9件のうち、1件は2機関による訪問だった。

＜平成29年度個別訪問で対応した内容例＞

- ◆愛媛大学のFD／SDの取組について
- ◆SDC（SD実践的指導者）の養成の取組について
- ◆SDC有資格者を生かした職員育成による効果について
- ◆愛媛大学の教職協働推進体制について
- ◆教育の内部質保証に係る組織や運営について 等



＜訪問対応依頼者からの声＞

- ・実績に裏打ちされた愛媛大学の教育改善の取組について多くの貴重なお話をいただきました。
- ・貴重な資料もご提供いただき、伺ったお話と合わせて本学で第一にすべきことをしっかり検討したい。
- ・愛媛大学の全国を対象とした教職員能力開発拠点として取組みや、SDCの養成についてのお話を聞かせていただき、勉強になった。

愛媛県立八幡浜高等学校からの報告書

研修名：アクティブ・ラーニングにおける発問法について

日 時：平成 29 年 6 月 19 日（月）15：40 ～ 16：40

会 場：愛媛県立八幡浜高等学校いずしね館 2 階多目的ホール

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：36 名（八幡浜高等学校（拠点校）教員 30 名，グループ校（6 校）教員 6 名）

<概要>

愛媛大学の中井 俊樹 氏を講師に、「アクティブ・ラーニングにおける発問法について」をテーマに研修を行った。

まず、講師よりアクティブ・ラーニング型の授業が展開される中で発問はどうあるべきかについて、様々な発問の種類、発問の機能及び具体例等が説明され、併せてアクティブ・ラーニングそのものについての考察等、事前に配布した資料をもとにわかりやすく講話がなされた。その後、講師が講話した内容を振り返りながら、受講者である八幡浜高等学校及びグループ校の教員個々が日々実践している授業での取組と照らし合わせて、各グループ（6～4 名／グループ）で討議した。そして、3 グループの代表者から討議内容について発表がなされた。

研修終了後にも、受講者が個人的に日頃の授業の中で疑問に思っている発問の在り方について講師の方と活発な意見交換する場面が見られた。



<アンケート結果> 回答者：24 名

◎研修についての満足度 満足：50.0% どちらかといえば満足：50.0%

◎講師についての満足度 満足：66.7% どちらかといえば満足：33.3%

◎受講後の意見・感想

- ・発問が質問と違うということ，答えを知るためでなく，学習を促すためのものだと改めて理解できた。
- ・発問の様々なバリエーションが具体的にわかり，試してみようと思った。

人間環境大学松山看護学部からの報告書

研修名：第1回 FD・SD 研修会 「アクティブラーニングの展開と教育効果」

日 時：平成 29 年 8 月 28 日（月） 13：30～16：00

会 場：人間環境大学松山看護学部 8 階講義室 A

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：教員 20 名

<概要>

愛媛大学の中井俊樹先生を講師にお迎えし、「アクティブラーニングの展開と教育効果」をテーマに研修会を開催した。

まず学習環境のルールのお話があり、その後アイスブレイクとして参加者の中から 10 人を対象に質問を行うことで、効果や役立つ場面について実際に体験した。

その後、アクティブラーニングの定義や課題、学習課題の組み立てについては、具体例を示していただきながら、グループワークの中で意見交換を行うことが出来た。

また発問やリフレクティブ・サイクルについては、講義や実習の場面を例として、ポイントを押さえながら、今後の実践に取り入れていけるようにグループワークを行った。

アクティブラーニングに関して、基本的な内容から具体的な展開方法等、参加者が日頃から疑問に思っていた点について、積極的に質問も出され、非常に学びの多い研修会となった。



<アンケート結果> 回答者：19 名

◎研修についての満足度 満足： 94.7% どちらかといえば満足： 5.3%

◎講師についての満足度 満足： 94.7% どちらかといえば満足： 5.3%

◎受講後の意見・感想

- ・アクティブラーニングについて詳細に学んだことがなかったので、定義やその特徴などをしっかり学べてよかった。
- ・発問の重要性についてよく理解できた。アイスブレイクなどを実際に取り入れてみようと思った。

藤田保健衛生大学医学部 医学教育企画室からの報告書

研修名：医学教育講演会「明日からできる，医療系学部でのアクティブ・ラーニング」

日 時：平成 29 年 8 月 28 日（月）14：00 ～ 15：30

会 場：藤田保健衛生大学 生涯教育研修センター1 号館 9 階 901 講義室

講 師：小林 直人（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：104 名（管理職 5 名，教員 94 名，職員 5 名）

< 概要 >

愛媛大学の小林直人教授を講師に，「明日からできる医療系学部でのアクティブ・ラーニング」をテーマに，模擬講義を含めた研修会を行った。

最初に，講師が初歩的なアクティブ・ラーニングを実演した。その上で，アクティブ・ラーニングの基本的な考え方や導入するにあたっての注意点などについての講演が行われた。

近年，アクティブ・ラーニングの必要性が高まっているが，“どのように第一歩を踏み出すべきかわからない”という教員が本学には多かった。アクティブ・ラーニングは“難しい”，“大変だ”と考えていたが，「明日からできる」に焦点が当てられた素晴らしい講演により，殆どの教員が“簡単なことから導入してみよう”と考えるようになった。本学にとって実り多い研修会となった。



< アンケート結果 > 回答者：98 名

◎研修についての満足度 満足：85.7% どちらかといえば満足：13.2%

◎講師についての満足度 満足：82.7% どちらかといえば満足：16.3%

◎受講後の意見・感想

- ・アクティブ・ラーニングを授業にどう導入しようか悩んでいたのが，わかりやすく説明していただけてよかった。
- ・人数の多い講義でもアクティブ・ラーニング手法を比較的簡単に使うことができることがわかりよかった。

福岡女子短期大学からの報告書

研修名：平成 29 年度第 1 回 FD・SD 研修会

「オリジナリティ」と「魅力」ある授業作りへ ～私のアクティブ・ラーニング～

日 時：平成 29 年 9 月 5 日（火）13：00 ～ 15：00

会 場：福岡女子短期大学 1 号館 135 教室

講 師：清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：45 名（教員 25 名 職員 20 名）

<概要>

愛媛大学の清水栄子先生を講師に、「オリジナリティ」と「魅力」ある授業作りへ～私のアクティブ・ラーニング～と題して研修会を行った。

前半は①講義法とアクティブ・ラーニング、それぞれの長所と短所、②アクティブ・ラーニングの手法についての紹介を行って頂き、多様な面を持つアクティブ・ラーニングについて研修を行った。またワークも行い、活発に意見が出された。

後半は本学で取り組んでいる事例について 2 名の教員が発表を行い、清水先生よりの確かなアドバイスをいただいた。

質疑応答では事前に集めた質問に対し、清水先生より丁寧なご回答をいただいた。全教職員で共有する事ができ、大変有意義な研修会となった。



<アンケート結果> 回答者：36 名

◎研修についての満足度 満足：61.1% どちらかといえば満足：36.1%

◎講師についての満足度 満足：77.8% どちらかといえば満足：19.4%

◎受講後の意見・感想

- ・講義法、アクティブ・ラーニングのそれぞれの長所、短所を共有できた上、アクティブ・ラーニングの様々な方法を知ることができたので、授業方法の選択肢が増えて良かった。
- ・アクティブ・ラーニングに取り組むハードルが下がり、積極的に活用していこうと思った。

京都大学からの報告書

研修名：京都大学学内研修会「IR について」

日 時：平成 29 年 9 月 6 日（水）13：30 ～ 17：00

会 場：京都大学 吉田キャンパス 国際高等教育院棟多目的スペース

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：37 名（職員 37 名）

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長・教授 中井 俊樹先生を講師に招き、「IR の意義と実践方法」をテーマに学内研修会を開催しました。

37 名の参加者は、8 グループに分かれ受講するとともに、合間のミニワークにおいて活発に意見交換を行いました。

最後に、各グループは 3 種類の報告書のデータ等から見える京都大学の重要な課題を 3 点設定するとともに改善の骨子をまとめ、改善策の発表を行いました。

本研修ではアクティブラーニングの手法が活用され、参加者は IR を通した課題発見や解決策の提案といった実践的な手法を主体的に学びました。



<アンケート結果> 回答者：37 名

◎全体的な印象について 非常に有意義であった：42% 有意義であった：50%

◎受講後の意見・感想

- ・データの扱い方、分析上の注意点、意思決定に資する論理の例、情報提供時の注意点等、業務に直接結びつくような事項が多く、非常に有意義な講義でした。
- ・グループワークがあり、実際にこういった観点をもって業務に取り組むべきかのヒントが得られた。

愛知医科大学からの報告書

研修名：明日からできる，医療系学部でのアクティブラーニング

日 時：平成 29 年 9 月 12 日（火）17：00 ～ 19：00

会 場：愛知医科大学 303 講義室（大学本館 3 階）

講 師：小林 直人（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：136 名（主催者含む医学部教員：129 名・看護学部教員：7 名）

<概要>

愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構教育企画室長，医学部附属総合医学教育センター長・医学教育学講座 教授 小林直人先生を招聘し，大講義室で特別な準備を要しないアクティブラーニングの方法についての研修を行った。

まず小林先生から実際の講義を行ってもらい，その中で受講者は学生となってどのように同僚または講師と意見交換するかを実体験した。ディスカッションを上手く進めるためにはどのような発問をするかが鍵であることが説明されたが，実際にディスカッションを経験してみるとその意味が良く理解できたように思われる。正解が一つしかない発問は意見を述べる学生に無意識のプレッシャーをかけることになるため，答えがない問いを投げかけて深く考えさせることが重要であることなどを受講者は身をもって体験し理解することができた。

実際の講義の後にはアクティブラーニングを進めていくための細かな秘訣を講義していただき，特別な難しい手法を用いるのではなく，学生の日々の経験を元にして考えさせていくようなやりとりを行うのが良いことなど，明日からすぐに使える方法がいくつも紹介され，受講者は自分の次の講義から実際にアクティブラーニングを進めていけるような気持ちになった。

研修終了後にはフロアからアクティブラーニングのアウトカムに関するエビデンスについて，医学部に於けるリベラルアーツの再考についてなど活発な質問・意見交換がされた。あくまでも医学部での医学教育の文脈においてどう考えるかを小林先生から回答いただき，非常に示唆に富む意見を頂戴した。



<アンケート結果> 回答者：107 名

- | | | |
|-------------|----------|------------------|
| ◎研修についての満足度 | 満足：51.4% | どちらかといえば満足：38.3% |
| ◎講師についての満足度 | 満足：53.3% | どちらかといえば満足：41.1% |
- ◎受講後の意見・感想
- ・知識の押し付けから理解を促す講義への発想の転換が得られた。
 - ・すぐに実践できそうな手法を教えていただいたので，応用できる感覚を持てた。

亜細亜大学からの報告書

研修名：第4回全学FD研修会「カリキュラム・マップ作成に関するワークショップ」

日 時：平成29年10月31日（火）13:00～16:30

会 場：亜細亜大学 5号館6階564教室

講 師：小林 直人（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室）

対 象：学長執行部（学長，副学長，教務委員長，全学共通教育委員会副委員長，
学長付教学委員），各学部執行部（学部長，教務主任，教務主任補佐）

<概要>

亜細亜大学中長期計画「アジア未来マップ2025」3ヶ年中期行動計画で示されている「ディプロマポリシーの見直しとそれを実現するカリキュラムポリシーの策定」に関連して「授業科目のマッピングの研修」を行うことが喚起されています。

それらを受けて、今回は、愛媛大学の小林直人先生を講師にお迎えし、カリキュラム・マップの作成をテーマにしたワークショップ形式の研修会を開催しました。

開催にあたり各学科で事前にカリキュラム・マップを試作していただき、それをもとにワークショップを迎えました。当日は、学長執行部，各学部執行部の先生方に加え，教学課職員の積極的な参加がありました。講師のレクチャー後，学科ごとにカリキュラム・マップについて再検討の上，ポスターセッションを行い。発表と質疑をしました。



◎受講後の意見・感想

- ・カリキュラム，科目に取り込むべき3要素の視点を得られた。
- ・配付資料も有用なものであったが，その中でも苦労した点なども説明していただけたのでとても満足。

広島女学院大学からの報告書

研修名：アクティブ・ラーニング入門

日 時：平成 29 年 11 月 29 日（水）15：00～17：00

会 場：広島女学院大学ソフィア 2 号館 101 教室

講 師：清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室）

参加者：52 名（教員 46 名，職員 5 名，学生 1 名）

<概要>

愛媛大学の清水栄子氏を講師にお迎えし、「アクティブ・ラーニング入門」をテーマに FD 研修会を行った。

まず，学習アプローチの類型（マッピング）とアクティブ・ラーニングの定義に関する講義を聴いた後，各受講者は配布されたワークシートに，講義法とアクティブ・ラーニングの長所と短所について記入を行った。その後，受講者は前後隣同士で 4～5 名の小グループに分かれ，各自が記入した講義法とアクティブ・ラーニングの長所と短所を発表し合い，意見交換を行った。その後，教室内でマイクを回して，各グループで出た意見を発表していった。次に，配布された資料（レジュメ）の，アクティブ・ラーニングの様々な技法に目を通し，その後，ワークシートを用いて，受講生が自分の授業で取り入れることができる(or 取り入れている)技法にチェックを入れ，実際にどう取り入れるか（取り入れているか）について記入した。その後，再度小グループに分かれ，1 人 3 分ずつ記入した内容を発表し，意見を交換した。グループワーク終了後，マイクを回して，各グループで出た意見の発表を行った。

講演終了後に質疑応答を行った。受講者からは，各自の授業でアクティブ・ラーニングを実施する際に生じた，様々な問題点や悩み，疑問についての意見が述べられた。普段，接する機会がない他学科の教員同士が，自身の授業についての情報交換を行うことで，今後の授業改善のヒントを得ることができ，有意義な研修の時間を持つことができた。



<アンケート結果> 回答者：39 名

◎研修についての満足度	満足： 59.0%	どちらかといえば満足： 35.9%
◎講師についての満足度	満足： 61.5%	どちらかといえば満足： 35.9%
◎受講後の意見・感想		

- ・アクティブラーニングの様々な手法とその取り入れ方について具体的な方法を共有できたことで，自分の担当する授業への応用方法を考えることができた。
- ・知識伝達が基本の授業であるが，アクティブラーニングの技法をすでに使っていることを確認することができた。

4. 情報発信

教育改革や改善を進めるためには現状を把握し、分析することが第一歩となる。本拠点では、学生の学びと成長に関わる各種データの収集・分析を行い、情報を公開している。その成果の一つとして、平成27年度以降、ポスター「データから考える愛大授業改善」を毎年作成しており、今年度でVol.3となった。今回は、学内の国際交流に関わる取組や留学に関わるデータを収集し、実情を理解した上で、学生の国際的視野を広げる工夫の必要性を訴えるものとなっている。授業やカリキュラムの改善及び学生支援の充実に活用していただけるよう、広く教職員に配付するとともに、各種研修等の場で情報提供していく。

また、教学IRerへの支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組報告を掲載した、教育企画室ニュースレター「IR News 第5号」を発行し、全国の高等教育機関に配付することとしている。

これらの刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報については、教育企画室のホームページでも発信している。

なお、教材の提供に関しては、教育企画室が開発したオリジナル教材等を教育企画室のホームページに掲載し、非営利目的で活用いただけるようにしている。今年度は約6,000件のアクセスがあった（平成30年2月末現在）。



データから考える愛大授業改善 Vol.3

5. その他教職員能力開発に関する事業

(1) コンサルティングについて

授業やカリキュラムの改善，I Rの組織等，能力開発や組織に関する個別相談を受け，コンサルティングを行っている。コンサルティングでは，教育コンサルタントによる現状診断を行い，ニーズを分析した上で，提案，介入，フォローアップというプロセスが取られる。この一連の流れの中に，研修会等の講師派遣や訪問対応を組み合わせ，その場限りの対応としない長期的支援の実現に努めている。

本拠点代表の小林は，昨年に引き続き日本医学教育学会の卒前教育委員会の委員に任命され，医療人教育にアクティブラーニングを積極的に導入するための教材作成を分担している。



(2) 国際化対応について

愛媛大学では職員の国際化対応力向上のため，国際交流協定校と職員の相互派遣による研修を毎年実施している。本研修の一環として，アメリカ合衆国イリノイ州 Graylake 市の College of Lake County (C L C) の職員に対し，代表の小林が愛媛大学の F D / S D の取組を紹介し，意見交換を行った。また，同じく協定校であるモザンビーク・ルリオ大学の教員が愛媛大学の F D / S D プログラムに関心を示され，オブザーバーとして研修に参加される場面もあった。

さらに，2017 年度国別研修「ミャンマー・イエジン農業大学能力向上プロジェクト」において，訪問団に対し，本拠点代表の小林が愛媛大学の教育改革のための組織や特徴，課題などを説明した。

(3) 論文・記事の掲載等について

専門分野から大学全体の取組まで，教育企画室のスタッフが愛媛大学での事例や研究成果をまとめた論文や記事について，各種教育誌や新聞等に掲載された（詳細は次頁参照）。

また，著書に関しても共著を含めて 6 冊が新たに出版され，研究成果を積極的に発信している。

表 題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著 者
A year-round evidence-based medicine-learning course organized by medical students in EhimeUniversity	Journal of General and Family Medicine	日本プライマリ・ケア連合学会	April, 2017 Vol.18 No.4 pp.175～179	(共著) 小林直人ら
A case study of university-wide effects of e-learning promotion activities	ICoME 2017 Journal	International Journal for Education Media and Technology	August, 2017 Vol.11 No.1 pp.34～41	(共著) 仲道雅輝ら
学生の学び方を変えるアクティブラーニング	大学教育学会誌	大学教育学会	2017年5月 第39巻1号 pp.17～20	中井俊樹
薬学生・医学生を対象とした「バイタルサインからの臨床診断BPVS (Basic Physiology of Vital Signs) シミュレーショントレーニング」による教育効果	薬学教育	日本薬学教育学会	2017年 第1巻1号 DOI:10.24489/ijphe.2017-005	(共著) 小林直人ら
医学部との連携による薬学生4年次のバイタルサイン・フィジカルアセスメント実習	日本シミュレーション医療教育学会雑誌	日本シミュレーション医療教育学会	2017年 第5巻1号 pp.40～48	(共著) 小林直人ら
知識、疑似体験、実行動、振り返り、評価を組み合わせた体系的なリーダーシップ教育	日本リーダーシップ学会論文集	日本リーダーシップ学会	2018年2月 第1号 pp.1～8	(共著) 丸山智子ら
卒前と卒後の地域医療教育	愛媛医学	愛媛医学会	2017年6月 第36巻2号 pp.82～84	小林直人
次世代の医師をどうやって育てるか	愛媛医学	愛媛医学会	2017年12月 第36巻4号 pp.215～217	小林直人
教職協働の推進と大学職員の能力開発	大学教務部課長相当者研修会報告書	日本私立大学協会	2018年2月 第55回 pp.107～113	(共著) 中井 俊樹ら
学習者に問いかける「発問」を効果的に活用した教え方	臨床老年看護	日総研出版	2017年9月 第24巻5号 pp.47～52	中井俊樹
組織的な教員の能力開発～愛媛大学の事例から～	学士課程教育機構研究誌	創価大学	2018年 第6巻 (印刷中)	小林直人
大学教育における発問の活用－発問の機能的整理を通じた研究課題の明確化	名古屋高等教育研究	名古屋高等教育研究センター	2018年3月予定 第17号	(共著) 中井俊樹ら
地域との連携・協働を担う教員に求められる資質・能力を構成する概念に関する一考察	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学生支援機構	2018年3月 第16号 (印刷中)	(共著) 高橋平徳ら
大学教員の共通する特徴を理解する－求められる2つのコミットメント	教育学術新聞	私立大学協会	2017年7月5日 2692号	中井俊樹

Seminar for YAU, Myanmar at Ehime University, JAPAN; Oct 23, 2017

Organization for the Education at Ehime University

Special Aide to the president, Ehime University
(Educational Planning, Professional Development)
小林直人 KOBAYASHI, Naoto MD PhD



Organization of Ehime University

TOPICS:

4 Actors for educational innovation

Department of FD/PD Specialists

Council for educational and student support at Ehime University



Organization of Ehime University

4 Institutions and 7 Faculties



Organization of Ehime University

TOPICS:

4 Actors for educational innovation

Department of FD/PD Specialists

Council for educational and student support at Ehime University



Organization of Ehime University

3 Layers required for Educational Innovation

Improvement of ...

Micro-level, classes and courses

Middle-level, curricula

Macro-level, organization

Sato, 2007



Organization of Ehime University

4 Actors required for Educational Innovation

Actor 1, faculty members

Actor 2, education-directed

Actor 3, top-managers

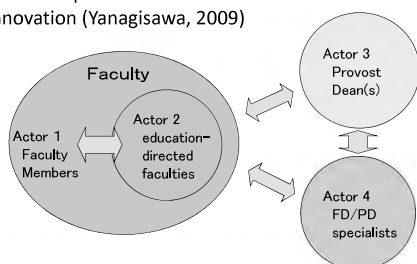
Actor 4, specialist for FD/PD

Yanagisawa, 2009



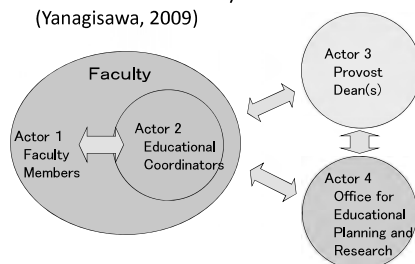
Organization of Ehime University

4 Actors required for Educational Innovation (Yanagisawa, 2009)



Organization of Ehime University

4 Actors at Ehime University (Yanagisawa, 2009)



Organization of Ehime University

“Educational Coordinators” of Ehime University

- education-directed faculty members
- about 60, appointed by the president
- 4-5 training-seminars per year
- deals with hot topics on higher education and problems often depending on national policy

EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

TOPICS:

4 Actors for educational innovation

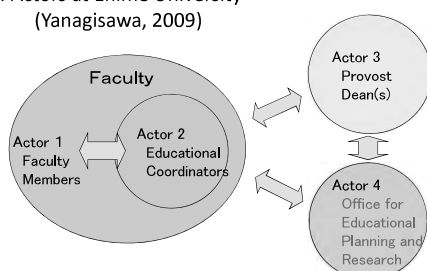
Department of FD/PD Specialists

Council for educational and student support at Ehime University

EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

4 Actors at Ehime University
(Yanagisawa, 2009)



EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

“Office for Educational Planning and Research” of Ehime University

- research and practice for higher education
- “think tank” for the president and provost
- 3 full-time faculty + non-permanent staff
- faculty and staff development, FD/SD/PD
- institutional research (IR) for higher education

EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

“Office for Educational Planning and Research” of Ehime University

- faculty development for teachers
- “tenure-track” programs for young faculty members (100 hours)
- staff development for office-staff through collaboration between professors and officers
- questionnaire-survey of all students as IR

EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

TOPICS:

4 Actors for educational innovation

Department of FD/PD Specialists

Council for educational and student support at Ehime University

EHIME UNIVERSITY

教育改革のための組織作り



EHIME UNIVERSITY

Organization of Ehime University

Council for educational and student support at Ehime University

- Chaired by the Vice-President (Education)
- Directors of centers (Common Education, etc.)
- Vice-Deans of all Faculties
- deals with every matter for higher education (admission, curricula, rules and regulations)

EHIME UNIVERSITY

6. 第2期中間評価の実施（共同利用運営委員会）

今年度が第2期教職員能力開発拠点の中間の年度にあたることから、共同利用運営委員会において本拠点の活動状況の中間報告を行った。目標体系図（P.61参照）に掲げる評価指標と第2期の実績を比較しながら審議を行った結果、概ね目標を達成できていることが確認された。第2期の活動実績及び数値目標は以下のとおり。

I 指導者の養成・研修

① 研修プログラムの開発・提供(FDer)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	1	0	1	2	2	3	100.0%	66.7%	5
プログラム提供数	1	0	1	2					
認定プログラム修了者数	38	0	34	72		120		60.0%	
参加者アンケート	100.0		100.0						

※参加者アンケートは、4段階評価のうち、肯定的意見を回答した者の割合（以下同じ）

② 研修プログラムの開発・提供(IRer)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	0	1	1	2	1	2	100.0%	100.0%	5
プログラム提供数	0	1	1	2					
認定プログラム修了者数	0	32	28	60		100		60.0%	
参加者アンケート		97.1	100.0						

③ 研修プログラムの開発・提供(SDC)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	2	2	1	5	3	5	100.0%	100.0%	5
プログラム提供数	2	2	1	5					
認定プログラム修了者数	36	24	17	77		150		51.3%	
参加者アンケート	100.0	100.0	93.7						

※H27, H28はSDC養成講座とフォローアップセミナーの2つを実施しており、共に満足度100。

※修了者数には、SDCフォローアップセミナー修了者数を含む。

④ 講師派遣

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
派遣機関数	7	6	5	18	18	30	100.0%	60.0%	5
参加者数	290	410	247	947					
参加者アンケート	87.9	94.9	-						

⑤ 他機関との連携

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
連携機関数	3	2	1	6	3	5	100.0%	100.0%	5
連携プログラム数	2	3	3	8		20		40.0%	

I 指導者の養成・研修(合計)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	3	3	3	9		10		90.0%	-
修了者数	74	56	79	209		370		56.5%	

※数値は平成29年12月1日現在のもの

評価基準	点数
100%	5
80%~99%	4
60%~79%	3
40%~59%	2
39%未満	1

Ⅱ 体系的・専門的なFD／SDモデルの構築と普及

① 研修プログラムの開発・提供(FD)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	2	9	3	13	5	8	100.0%	100.0%	5
プログラム提供数	13	12	12	39					
参加者数	313	224	182	714		500		100.0%	
参加者アンケート	90.1	97.2	97.7						

② 研修プログラムの開発・提供(IR)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	0	1	2	3	5	8	60.0%	37.5%	3
プログラム提供数	0	0	3	3					
参加者数	0	0	237	237		100			
参加者アンケート		—	91.7						

③ 研修プログラムの開発・提供(SD)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
開発プログラム数	2	9	1	12	5	8	100.0%	100.0%	5
プログラム提供数	3	5	1	10					
参加者数	78	110	26	209		150		100.0%	
参加者アンケート	94.4	96.2	92.0						

④ 講師派遣／オープン・オフィス

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
派遣機関数	32	45	27	104	60	100	100.0%	100.0%	5
参加者数	1614	3453	1933	7000					
参加者アンケート	96.0	92.5	94.1						
訪問機関数(オープン・オフィス)	20	15	6	41		50		82.0%	

⑤ 教材作成・提供

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
教材作成数	7	3	2	12	6	12	100.0%	100.0%	5
ウェブ閲覧数	566	1629	834	3029		1800		100.0%	

⑥ コンサルティング

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
利用機関数	14	3	2	19	15	25	100.0%	76.0%	5
利用者数	14	3	3	20		100		20.0%	

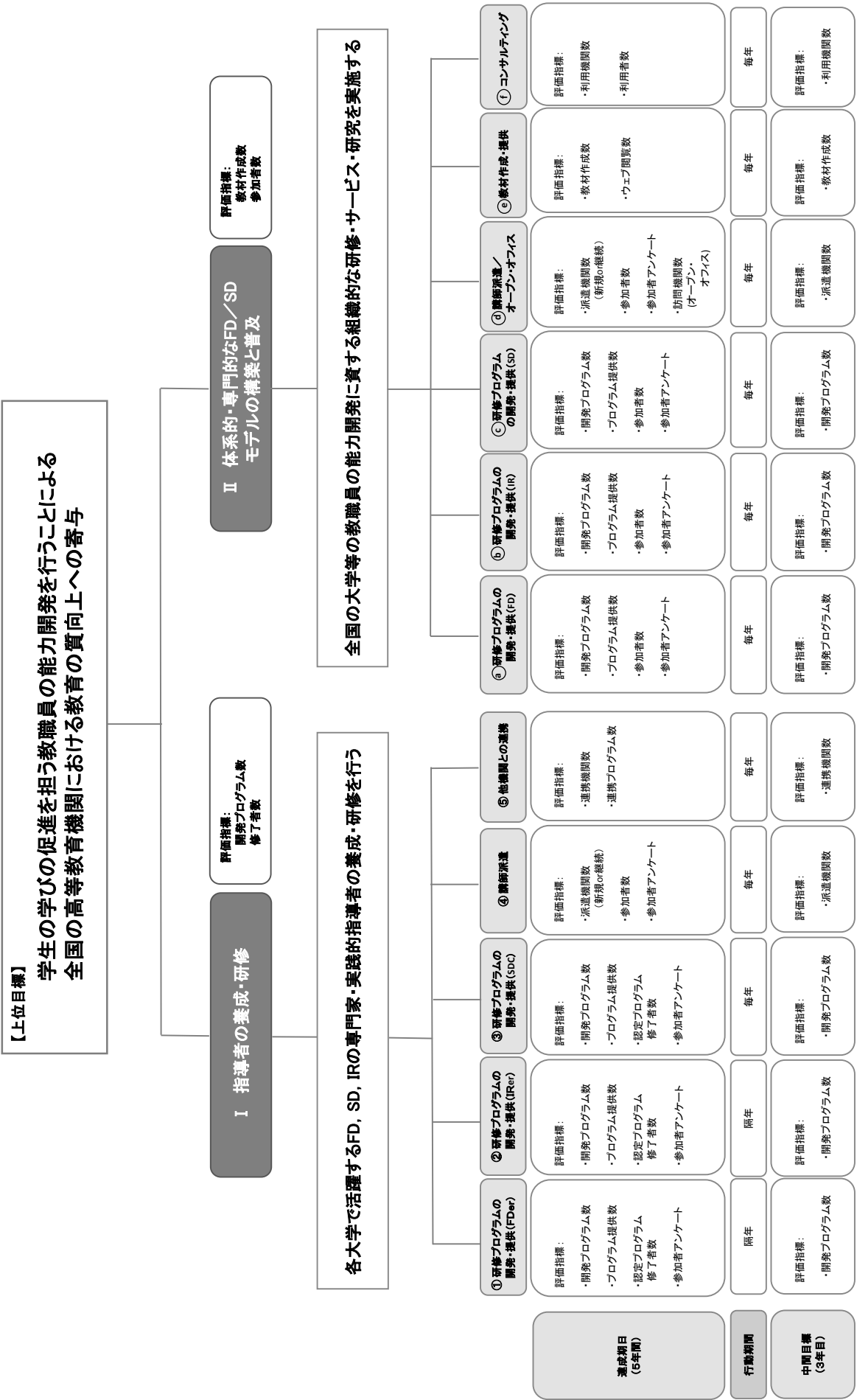
Ⅱ 体系的・専門的なFD／SDモデルの構築と普及(合計)

	実績				評価指標		指標達成率		評価基準 による点数 (3年)
	H27	H28	H29	小計	(3年)	(5年)	(3年)	(5年)	
教材作成数	7	3	2	12		12		100.0%	—
参加者数	391	334	208	933		750		100.0%	

※数値は平成29年12月1日現在のもの

評価基準 : 点数	
100%	: 5
80%～99%	: 4
60%～79%	: 3
40%～59%	: 2
39%未満	: 1

第2期教職員能力開発拠点の目標体系図



愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規

平成18年5月10日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構（以下「機構」という。）に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）を置く。

(目的)

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）の指示のもと、愛媛大学（以下「本学」という。）の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、教育企画室に次の各号に掲げる教育研究部門（以下「部門」という。）を置く。

- (1) 教育・学習支援部門
- (2) 教育調査・分析部門
- (3) 学生能力開発部門

(業務)

第4条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
- (3) 授業評価及びシラバスに関すること。
- (4) 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
- (5) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること
- (6) 教職員能力開発拠点事業に関すること
- (7) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

(組織)

第5条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員

- ア 教育企画室に配属された機構の専任教員
- イ 機構の専任教員（アを除く。） 若干人
- ウ 本学（機構を除く。）の専任教員 若干人

2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

3 副室長は、本学の専任教員のうちから、機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

4 室員のうちイの者は機構長が指名し、ウの者は機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

5 副室長及び室員（アを除く。）の任期は1年とし、再任を妨げない。

(職務)

第6条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

2 副室長は、室長の職務を助ける。

参考資料②

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

(共同利用運営委員会)

第7条 教育企画室に、第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、共同利用運営委員会を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(研究員)

第8条 教育企画室に、研究員を置くことができる。

2 研究員は、教育企画室の業務に従事する。

3 研究員は、本学の職員のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

(教育支援員)

第9条 教育企画室に、教育支援員を置くことができる。

2 教育支援員は、教育企画室の業務に参画する。

3 教育支援員は、他の大学、地方公共団体、民間企業等（以下「他の大学等」という。）の者のうちから、室長が推薦し、機構長がその者が所属する他の大学等の長の承認を得て、委嘱する。

(共同利用)

第10条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育、研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第11条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第12条 この内規に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年5月10日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成20年4月23日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年3月23日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年9月19日から施行する。

愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項

平成23年3月9日
制 定

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規第8条に基づき、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定を受けた愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室、以下「拠点」という）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（資格の名称）

第2条 資格の名称は、「スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（Staff Development Coordinator）」（以下「SDC」という。）とする。

（資格の認定）

第3条 SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、自らの業績等を記録したポートフォリオ（スタッフ・ポートフォリオ、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオと呼称されるものをいう。）を別紙様式1のSDC認定申請書とともに提出した者に対して、拠点が別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、第5条に規定する資格認定委員会による書類審査及び面接審査に合格し、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が認定した者に授与する。

（資格の有効期間）

第4条 前条で認定を受けた資格の有効期間は、認定日から、拠点が教育関係共同利用拠点としての認定を受けた有効期間の終了日までとする。

（資格認定委員会）

第5条 別紙様式1のSDC認定申請書が提出されたときは、資格認定の審査を行うため、資格認定委員会を設けるものとする。

2 資格認定委員会は、拠点の代表者が指名する者をもって構成する。

3 資格認定委員会に委員長を置き、前項に規定する委員の中から拠点の代表者が指名する。

（資格認定・授与原簿）

第6条 SDCを認定し授与したとき、及び第8条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3の愛媛大学教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

（資格認定証書の再交付）

第7条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を行うことができるものとする。

（資格の取消し）

第8条 SDCを授与された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

（事務）

第9条 SDCの認定に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

（雑則）

第10条 この要項に定めるもののほか、SDCの認定に関し必要な事項は、拠点の代表者が別に定める。

参考資料③

附 則

この要項は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則

この要項は、平成２４年８月１７日から施行する。

附 則

この要項は、平成２５年５月２７日から施行する。

附 則

この要項は、平成２６年７月３日から施行する。

附 則

この要項は、平成２７年６月３０日から施行する。

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得していること。
2. 高等教育機関における職員人材育成ビジョン^{※1}を構築・支援するための手法を修得していること。
3. スタッフ・ポートフォリオ^{※2}を作成する職員に対するメンター経験を有していること。
4. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有していること。

※1 職員人材育成ビジョンとは、各機関において職員を育成していくための理念等を明文化したものであり、各機関固有のものをいう。

※2 スタッフ・ポートフォリオとは、SPODが開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

参考資料④

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規

平成22年3月23日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規（以下「教育企画室内規」という。）

第7条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室内規第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 教育企画室長

(2) 教育企画室副室長 1人

(3) 教育学生支援部長

(4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。
(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことはできない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成 22 年 4 月 21 日
制 定

(設置)

第 1 条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規第 12 条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1 人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第 3 号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長が指名する。

(議長)

第 4 条 共同利用推進会議に議長を置き、教育企画室長をもって充てる。

- 2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する教育企画室副室長がその職務を代行する。

(議事)

第 5 条 共同利用推進会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

参考資料⑤

附 則

この内規は、平成２２年４月２１日から施行する。

附 則

この内規は、平成２３年５月９日から施行する。

附 則

この内規は、平成２４年５月１５日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

共同利用運営委員会委員名簿

氏 名	所属・職名	備 考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
佃 雅之	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
沖 裕貴	立命館大学教育開発推進機構 教授	第4号委員
青野 透	徳島文理大学総合政策学部 教授	第4号委員
大森 不二雄	東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授	第4号委員
榊原 暢久	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター 教授	第4号委員

共同利用推進会議委員名簿

氏 名	所属・職名	備 考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師	第3号委員
佃 雅之	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
神 智彦	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
秋谷 恵子	愛媛大学総務部人事課長	第6号委員



平成30年3月 発行

発 行 教職員能力開発拠点
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL.089-927-8922 (FAX兼用)
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>
印 刷 セキ株式会社